

教育に関する事務の管理及び執行の状況 の点検及び評価の結果に関する報告書

(平成30年度実績)

名護市教育委員会

目次 -Contents-

I	点検・評価制度の概要	1
1	実施根拠	1
2	目的	1
3	対象事業の考え方	1
4	名護市教育行政点検・評価に係る学識経験者懇話会の設置	1
5	評価方法	1
II	教育委員会の活動状況	2
1	教育委員会教育委員(令和元年9月1日現在)	2
2	教育委員会の開催状況	2
3	教育委員会教育委員の主な活動	4
4	教育長の主な活動	5
III	点検評価 内部評価・外部評価一覧	17
IV	点検評価シート(施策別)	18
1	教育環境の整備と支援の充実	18
2	学校教育環境整備の充実	19
3	小中一貫教育の推進	20
4	学校給食の充実	21
5	名護市立教育研究所運営の充実	22
6	学力向上推進事業の充実	23
7	I C T (情報通信技術) を活用した教育の推進	24
8	国際社会に対応できる人材の育成	25
9	キャリア教育の充実	26
10	幼児教育の充実	27
11	教育関係機関等との連携	28
12	心豊かな人間性を育む教育の推進	29
13	人権教育や平和学習の充実	30
14	生徒指導の充実	31
15	特別支援教育の充実	32
16	文化財の保全及び普及活用	33
17	博物館活動の充実	34
18	市民の市史づくり	35
19	新博物館の建設	36
20	市民に開かれた利用しやすい図書館運営	37
21	全市民へ公平なサービスの提供	38
22	市民会館事業の充実	39
23	次世代の芸術文化を担う人材育成の推進	40
24	中央公民館の充実	41
25	地域公民館の充実	42
26	スポーツ活動事業の推進	43
27	青少年のスポーツ活動の推進	44
28	競技スポーツの推進	45
29	社会体育施設の整備	46
30	青少年の健全育成事業の充実	47
31	家庭教育の支援	48
32	地域の教育力の充実	49
33	社会教育団体の活性化	50

I 点検・評価制度の概要

1 実施根拠

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果を議会に提出するとともに、公表することが義務付けられていることに伴い実施するものである。

2 目的

教育委員会は、首長から独立した合議制の組織であり、生涯学習、地域の学校教育、社会教育、文化等の幅広い教育行政における基本方針を決定し、それに基づいて教育長が事務局を指揮監督し具体の事務を執行するものである。

本報告書は、上記基本方針に基づいて行われた教育行政の執行状況について、点検・評価することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、地域住民への説明責任を果たすことを目的としている。

3 対象事業の考え方

今回の点検・評価は、平成30年度事業とし、「第2次名護市教育振興基本計画（平成26年度～31年度）」を基本として、具体的施策名ごとに位置付けられている主な取組について対象とした。ただし、経常的で評価にそぐわない項目及び既に完了した施策については除いた。

4 名護市教育行政点検・評価に係る学識経験者懇話会の設置

点検・評価を行うに当たって、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項の規定に基づき、教育に関し学識経験を有する方の知見の活用を図るため、名護市教育行政点検・評価に係る学識経験者懇話会（以下、「懇話会」という。）を設置した。

なお、懇話会会員の委嘱に当たっては、学校教育、社会教育及び教育行政分野の識見を有する方を以下のとおり選任する。

- 眞喜志 隆氏：沖縄工業高等専門学校教授
- 宮城 恵次氏：元小学校校長
- 太田 佐栄子氏：株式会社スプリングナレッジラボ職員

5 評価方法

具体的施策ごとに4つの項目と総合評価を設定した。総合評価は、教育委員会による内部評価に加え、懇話会による外部評価を加えることで、評価の客観性を確保した。なお、「主な取組」の評価基準及び施策総合評価基準については、次のとおりである。

(1) 「主な取組」の評価基準

主な取組ごとにそれぞれ評価を行う。

評価	評価の基準
A	取組の目的が達成できた
B	取組の目的が概ね達成できた
C	取組の目的達成が不十分であった
D	取組の目的が達成できていない

(2) 施策総合評価基準

主な取組ごとの評価に対して施策全体としての評価を行う。

評価	評価の基準
A	目的が十分達成できた
B	目的が概ね達成できた
C	目的達成が不十分であった
D	目的が達成できていない

II 教育委員会の活動状況

1 教育委員会教育委員(令和元年9月1日現在)

役職	氏名	任期
教育長	岸本 敏孝	自 平成31年2月1日 至 令和4年1月31日
教育長 職務代理者	照屋 厚	自 平成30年7月1日 至 令和4年6月30日
委員	宮城 博	自 平成28年2月1日 至 令和2年1月31日
委員	大城 千代子	自 平成29年7月1日 至 令和3年6月30日
委員	名嘉 チエミ	自 平成28年7月9日 至 令和2年7月8日

2 教育委員会の開催状況

(平成30年度)

285定例会	H30.4.27	議案第22号	名護市教育委員会事務局職員の職の設置規則の一部を改正する規則の制定について	承認
		議案第23号	市指定文化財「のぞみの像」の追加指定について	承認
		議案第24号	名護市文化財保存調査委員の委嘱について	承認
		議案第25号	名護市教育支援委員の委嘱について	承認
		報告第1号	平成30年度名護市学校給食センター予算(給食費予算)の報告について	承認
352臨時会	H30.5.30	議案第26号	名護市学校災害補償規則の一部を改正する規則の制定について	承認
		議案第27号	平成30年度名護市一般会計補正予算(教育費予算(補正第1号))の要求について	承認
		議案第28号	第2次名護市教育振興基本計画(平成26年度～平成30年度)の計画期間延長について	承認
		その他	平成31年度全国高等学校総合体育大会 名護市実行委員会設立総会及び第1回総会について	
286定例会	H30.6.29	議案第29号	名護市学校給食センター運営委員の委嘱について	承認
		その他	幼児教育の無償化に係る今後の対応について	
		その他	名護市要保護及び準要保護児童生徒就学援助支給に係る要綱、要領の改正について	
353臨時会	H30.7.20	議案第30号	平成30年度8月幼稚園教諭人事異動について	承認
		議案第31号	平成31年度使用教科用図書採択について	承認
		議案第32号	名護市立幼稚園保育料条例施行規則の一部を改正する規則の制定について	承認
		報告第2号	平成29年度名護市学校給食センター決算の報告について	承認
287定例会	H30.8.31	議案第33号	平成30年度名護市一般会計補正予算(教育費予算(補正第3号))の要求について	承認
		議案第34号	平成31年度小中一貫教育校を除く11小学校における教育課程特例校導入について	承認
		その他	市立幼稚園教諭スキルアップ研修実施要領(案)について	

354臨時会	H30.9.27	議案第35号	名護市社会教育委員の委嘱について	承認
		議案第36号	名護市公民館運営審議会委員の委嘱について	承認
		議案第37号	教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の結果に関する報告書(平成29年度)について	承認
		その他	名護市いじめ防止基本方針の策定について	
288定例会	H30.10.25	報告第3号	名護市いじめ防止基本方針(案)の報告について	承認
		報告第4号	専決処分事項の報告について(教職員の服務規律違反行為に係る内申について)	承認
		報告第5号	市立幼稚園弁当の日の縮小について	承認
		その他	羽地学校給食センターが提供する学校給食への異物混入について	
355臨時会	H30.11.9	議案第38号	県費負担教職員人事異動(管理職)の内申について	承認
356臨時会	H30.11.29	議案第39号	平成30年度名護市一般会計補正予算(教育費予算(補正第4号))の要求について	承認
		議案第40号	屋部中学校校舎新築工事請負契約について	承認
289定例会	H30.12.25	議案第41号	平成30年度名護市教育功労者の承認について	承認
		議案第42号	市指定文化財の新規指定について	承認
		議案第43号	市指定文化財の名称変更について	承認
290定例会	H31.2.19	議案第1号	平成31年度教育委員会重点施策の策定について	承認
		議案第2号	平成31年度県費負担教職員定期人事異動(管理職・一般)の内申について	承認
		議案第3号	平成31年度教育委員会人事異動方針について	承認
		議案第4号	平成31年度教育委員会組織編成方針について	承認
		その他	名護市教育の日の式典及びイベント等の今後の在り方について	
357臨時会	H31.2.26	議案第5号	名護市附属機関に関する条例の一部を改正する条例の制定について	承認
		議案第6号	平成31年度名護市一般会計教育費予算について	承認
		議案第7号	平成30年度名護市一般会計補正予算(教育費予算(補正第7号))の要求について	承認
		議案第8号	平成31年度県費負担教職員定期人事異動(新規採用・再任用)の内申について	承認
		議案第9号	平成31年度名護市立幼稚園の休園について	承認
		報告第1号	屋我地小中一貫校校舎改築工事請負契約の契約金額を変更する契約に係る専決処分事項の報告について	承認
		報告第2号	名護市学校給食費(食材費)の改定の報告について	承認
		報告第3号	名護市立幼保連携型認定こども園整備事業について	承認

358臨時会	H31.3.11	議案第10号	平成31年度4月定期人事異動について	承認
359臨時会	H31.3.19	議案第11号	名護市学校運営協議会規則の一部を改正する規則の制定について	承認
		議案第12号	名護市立小学校及び中学校管理規則の一部を改正する規則の制定について	承認
		議案第13号	平成31年度学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の委嘱について	承認

3 教育委員会教育委員の主な活動

(平成30年度)

月 日	活動内容
4月13日	第45期教育研究員入所式
4月18日	名護市小・中校長研修会
4月27日	第285回教育委員会定例会
5月8・9日	第63回沖縄県市町村教育委員会連合会定期総会並びに研修会
5月16日	教育委員学校訪問（大宮小学校）
5月22日	教育委員学校訪問（久辺中学校）
5月29日	教育委員学校訪問（久辺小学校）
5月30日	第352回教育委員会臨時会
6月1日	平成30年度国頭地区市町村教育委員会協議会定期総会
6月12日	教育委員学校訪問（稲田小学校）
6月29日	第286回教育委員会定例会
7月3日	教育委員学校訪問（東江小学校）
7月6日	名護市少年の主張大会
7月10日	教育委員学校訪問（東江中学校）
7月11日	青少年の深夜はいかい防止等名護市民大会
7月13日	第1回名護市教育行政点検・評価に係る学識経験者懇話会
7月17日	第2回名護市教育行政点検・評価に係る学識経験者懇話会
7月20日	第353回教育委員会臨時会
7月26日	名護市中學生海外短期留学派遣者激励会
7月31日	第3回名護市教育行政点検・評価に係る学識経験者懇話会
8月31日	第287回教育委員会定例会
9月26日	第45期教育研究員成果報告会並びに修了式
9月27日	第354回教育委員会臨時会
10月17日	平成30年度沖縄県市町村教育委員会研修会
10月23日	名護市中學生海外短期留学帰国報告会
10月25日	第288回教育委員会定例会
11月9日	第355回教育委員会臨時会
11月9日	平成30年度第1回名護市総合教育会議
11月22日	平成30年度国頭地区市町村教育委員会協議会研修会

11月29日	第356回教育委員会臨時会
12月4日	教育委員学校訪問（羽地中学校）
12月25日	第289回教育委員会定例会
1月13日	平成31年名護市成人式典
1月19日	平成30年度名護市教育の日
2月1日	平成30年度市町村教育委員会教育長・教育委員研修会
2月19日	第290回教育委員会定例会
2月26日	第357回教育委員会臨時会
3月9日	名護市立中学校卒業式
3月11日	第358回教育委員会臨時会
3月18日	名護市立小学校卒業式
3月19日	第359回教育委員会臨時会

4 教育長の主な活動

（平成30年度）

月 日	事業名
4月2日	教育委員会辞令交付式（新採用・出向者）
	市長部局辞令交付式（係長級以上）
	教育委員会辞令交付式（教委異動職員）
	転入職員等辞令交付式（県費負担職員）
4月4日	名桜大学入学式
	平成30年度春の交通安全運動出発式
	名護市婦人会 来庁
4月5日	緑風学園学校運営協議会委嘱状交付式
4月6日	学校給食センター臨時職員辞令交付式
	臨時校長会
	新採用職員との懇親会
	教育長就任激励会及び教育委員会歓送迎会
4月9日	名護LC長岡柏ライオンズクラブ児童交流会参加報告会
4月10日	【市長・教育長表敬】 高校総体に関する挨拶
4月11日	国頭教育事務所表敬訪問
4月12日	ヒューマンキャンパス高等学校 校長・教頭来庁
	名桜大学学長表敬訪問
4月13日	第45期教育研究員入所式
	沖縄地区史跡整備市町村協議会監査
4月16日	沖教組国頭支部来庁
	屋我地ひるぎ学園学校運営協議会委嘱状交付式
4月17日	【教育長表敬】 名護商工高校校長 来庁
	【教育長表敬】 全国高校総体室長・主幹・指導主事・県保健体育課長来庁

4月18日	新博物館建設予定地視察
	名護市小・中校長研修会
4月19日	スポーツ推進委員委嘱状交付式及び懇親会
4月20日	名護市育英会審査会
	市幼稚園園長・教頭・教諭研修会
4月21日	【市長代理】名護市婦人会総会
	【市長代理】第25回名護市サッカー協会定期総会
4月23日	かもめーる贈呈式事業説明
4月24日	市小中教頭研修会・学校事務研修会
4月25日	平成30年度教職員システム評価者研修会Ⅲ
4月26日	【教育長表敬】ジブラルタ生命来庁
	GODAC訪問
	マルチメディア館訪問
4月27日	第285回教育委員会定例会
	【教育長表敬】国頭地区レクリエーション協会来庁
	【教育長表敬】青少年県民会議会長来庁
4月29日	NHKのど自慢大会
5月1日	国立沖縄工業高等専門学校表敬訪問
	平成30年度 名護市青少年育成協議会定期総会
5月2日	北部地域の道路網の整備促進並びに離島架橋の早期実現に向けた総決起大会
	第1回 市町村教育委員会教育長連絡協議会
5月5日	やんばる卓球選手権大会
5月7日	学校訪問報告会
5月8日	第63回沖縄県市町村教育委員会連合会定期総会並びに研修会
5月9日	第63回沖縄県市町村教育委員会連合会定期総会並びに研修会
5月10日	【教育長表敬】アメリカ総領事来庁
	【教育長表敬】名護市剣道連盟会長他来庁
5月12日	第51回 名護市ミニバスケットボール大会
5月14日	沖縄県教育長表敬訪問
5月16日	第70回 全国都市教育長協議会定期総会並びに研究大会一関大会
5月17日	第70回 全国都市教育長協議会定期総会並びに研究大会一関大会
5月18日	第70回 全国都市教育長協議会定期総会並びに研究大会一関大会
5月19日	第70回 全国都市教育長協議会定期総会並びに研究大会一関大会
5月22日	【教育長表敬】名護市校長会来庁
	教育委員学校訪問（久辺中学校）
	名護市教頭会歓迎会・懇親会
5月23日	臨時議会
5月24日	平成30年度教職員評価システム 当初校長面談

5月25日	名護市議会第190回定例会決議第4号の決議要請
	平成30年度 教職員評価システム 当初校長面談
5月26日	屋部小学校小学校創立130周年記念式典
5月28日	平成30年 度教職員評価システム 当初校長面談
	青年ネットワーク連合会総会
5月29日	教育委員学校訪問（久辺小学校）
	【市長代理】花の里定期総会及び懇親会
5月30日	【教育長表敬】小中校長会役員来所
	平成30年 度教職員評価システム 当初校長面談
	第352回教育委員会臨時会
6月1日	沖縄県史跡整備市町村協議会総会
6月4日	ウクレレバンド歓迎会
	学校評議員・学校運営協議会委嘱状交付・講演会
6月5日	第1回教科書採択地区協議会
	国頭地区市町村教育委員会歓迎会
6月6日	学校訪問報告
	【教育長表敬】PTA連合会長来庁
6月8日	第1回 教科書研究委員会
6月9日	高校生とともに考えるやんばるの沖縄戦
	【市長代理】北部農林高等学校後援会懇親会
6月11日	【教育長表敬】宮古島市教育委員会来庁
6月12日	教育委員学校訪問（稲田小学校）
6月13日	中央図書館、羽地図書室訪問
	東江幼稚園園舎改築工事安全祈願祭
	名護市租税教育推進協議会
6月14日	第191回 定例会 議案説明
6月15日	名護市子ども会育成連絡協議会総会・懇親会
6月18日	第191回 名護市定例会 議案質疑
6月19日	第191回 名護市定例会 一般質問
	【教育長表敬】東京書籍九州支社長来庁
	退職者辞令交付式
6月20日	第191回 名護市定例会 一般質問
6月21日	第191回 名護市定例会 一般質問
	【教育長表敬】ラジオ体操連盟来庁
	平和祈願祭
6月22日	第191回 名護市定例会 一般質問
	滝川児童交換会歓迎レセプション及び歓迎食事会
6月23日	第100回 国頭地区ミニバスケットボール交歓会

6月24日	第7回 緑風学園運動会
	第47回 久辺中学校運動会
	第42回 東江中学校運動会
	名護市長杯争奪ラグビーフットボール大会
	第71回 羽地中学校運動会
6月25日	第191回 名護市定例会 一般質問
6月26日	第191回 名護市定例会 一般質問
6月27日	第191回 名護市定例会 一般質問・追加議案
6月29日	市小中校長研修会
	子ども夢基金寄附金贈呈式（国吉設計）
	名護市商工会長他来庁
	名護市育英会総会
	ジュゴン保護関係者教育長要請
	第286回教育委員会定例会・懇親会
6月30日	津嘉山酒造所施設完了記念式典・祝賀会
7月2日	教育委員辞令交付式（照屋 厚 委員）
	「なごの日」オープニングセレモニー
	第13期議会打ち上げ
7月3日	教育委員学校訪問（東江小学校）
7月4日	学校訪問報告
	【教育長表敬】 婦人会会長来所
7月5日	市校長会役員教育長訪問
	【教育長表敬】 イオン琉球会長来所
7月6日	名護市少年の主張大会
7月7日	第43回名護市幼少年剣道大会
7月10日	教育委員学校訪問（東江中学校）
	【市長表敬同席】 数久田少年野球来庁
7月11日	青少年の深夜はいかい防止等名護市民大会
7月13日	第1回名護市教育行政点検・評価に係る学識経験者懇話会
7月14日	名護市婦人会交流会
7月17日	第2回名護市教育行政点検・評価に係る学識経験者懇話会
7月18日	第2回市町村教育委員会教育長連絡協議会
	第3回沖縄の青少年を健やかに育てる県民大会
7月19日	第2回教科書採択地区協議会
	臨時校長会
	第1回教育長部会
7月20日	第353回教育委員会臨時会

7月23日	懲戒処分審査会
	県教育庁生涯振興課班長他来庁
7月25日	名護市育英会審査会
7月26日	臨時議会
	名護市中学生海外短期留学派遣者激励会
	名護市校長会懇親会
7月27日	沖縄県都市教育長協議会第1回会議・情報交換会
7月28日	第38回新報児童オリンピックバレーボール大会
	名護夏まつり夜間街頭指導活動出発式
7月29日	千々布先生との懇親会
7月30日	【教育長表敬】 県女性管理職会来庁
	平成30年度名護市教育講演会
7月31日	永年勤続職員表彰
	第3回名護市教育行政点検・評価に係る学識経験者懇話会
8月1日	辞令交付式
8月2日	中学生海外短期留学派遣事業出発式
	【教育長表敬】 金秀グループ来庁
8月5日	名護市長杯職域ハーリー大会
8月6日	学校訪問報告会
8月9日	【市長代理】 第34回全国小学校陸上競技大会激励会
8月13日	【教育長表敬】 沖縄県学校図書館協議会会長来庁
	【教育長表敬】 国吉設計来庁
8月14日	【教育長表敬】 沖縄県バレーボール協会来庁
8月16日	細水先生（算数・数学研修会）との懇親会
8月17日	キャリア教育に関する地域連携の研究会
8月18日	北部地区婦人の主張大会
8月22日	名護地区安全なまちづくり推進協議会総会
8月24日	ツーデーマーチ実行委員会
8月26日	【市長代理】 第7回名護市空手道選手権大会
	創作劇団レキオス おきなわエイサー紙しばい公演
8月28日	いじめ防止基本方針策定委員会
8月29日	【教育長表敬】 東京書籍来庁
	【教育長表敬】 沖縄県中学校技術・家庭科研究会来庁
8月30日	【教育長表敬】 ヒューマンキャンパス理事長他来庁
	【教育長表敬】 沖縄学販来庁
	第60回NAGOハーフマラソン実行委員会
8月31日	第287回教育委員会定例会
	育英会寄付金贈呈式（金秀グループ）

9月1日	平成30年度沖縄県ミニバスケットボール3on3大会
9月2日	第54回久志駅伝及び第52回久志20kmロードレース大会
9月4日	【教育長表敬】セコム琉球株式会社社長来庁
	【教育長表敬】當山清実兵庫教育大学准教授来庁
	学推委員会 第2回運営委員会並びに各部会
9月5日	学校訪問報告会
	【教育長表敬】屋我地ひるぎ学園生徒全国大会参加報告
9月6日	【教育長表敬】特定非営利活動法人ボンネビル名護来庁
9月9日	第71回名護中学校運動会
9月10日	【市長・教育長表敬】SUP世界大会優勝報告
9月12日	当選証書付与式（名護市議会議員）
	【教育長表敬】名桜大学新城講師来庁
	【教育長表敬】名護ロータリークラブ来庁
	名護市海外移住者子弟等研修生歓迎会
9月13日	ちゃんぷるーシアター
	【教育長表敬】名護市青年ネットワーク連合会来庁
9月15日	平成30年度中学校対抗団体戦卓球大会
	【市長代理】三原区敬老会
	【市長代理】幸喜区敬老会
9月16日	平成30年度羽地小学校・幼稚園運動会
	平成30年度久辺小学校・幼稚園運動会
	平成30年度屋部小学校・幼稚園運動会
9月19日	平成30年度屋部の八月踊り
9月20日	幼稚園園長会との意見交歓会
	秋の交通安全運動出発式
9月21日	人権の花植え付け式
	議案説明会
	【市長表敬同席】小学生ラグビー沖縄県選抜選手来庁
9月22日	第45回 国頭地区陸上競技大会
	第4回なりやまあやぐ大会inやんばる（審査員）
9月23日	名護市青年エイサー祭り
9月26日	【市長表敬同席】ハワイ郡代表者来庁
	第45期教育研究員成果報告会並びに修了式
	北部農林高等学校定時制課程第60回前期卒業式
9月27日	【教育長表敬】沖縄県生涯学習インストラクター協会来庁
	第354回教育委員会臨時会
10月1日	第192回定例会 議案説明
	全国地域安全運動名護地区大会

10月2日	学校訪問報告
10月3日	【教育長表敬】大東文化大学渡辺雅之准教授来庁
10月4日	第192回定例会 議案質疑
10月7日	【市長代理】第47回名護市北部支部陸上競技大会
	お仕事体験やんばる☆きらりん
10月8日	北部農林高等学校体育祭
	名護高等学校学園祭
10月10日	第192回定例会 一般質問
10月11日	【教育長表敬】家庭倫理の会来庁
	第192回定例会 一般質問
10月12日	第192回定例会 一般質問
10月13日	第7回くがに能羽舞台
10月14日	【市長代理】第17回名護市長杯職域剣道大会
	第52回名護市ミニバスケットボール大会及び第14回名護市長杯争奪ミニバスケットボール大会表彰式
10月15日	第192回定例会 一般質問
10月16日	第192回定例会 一般質問・追加議案
10月17日	副市長就任式
	あけみお学級中間報告会
	平成30年度沖縄県市町村教育委員会研修会
10月19日	沖縄県教職員組合要請訪問
	第14期名護市議会議員との懇親会
10月20日	第34回北部混声合唱団定期演奏会
	大兼久豊年祭
10月21日	第46回名護市陸上競技大会
	名護商工高等学校学園祭
10月22日	【市長表敬同席】京都大学川上浩司教授来庁
10月23日	市小中校長研修会
	名護市中学生海外短期留学帰国報告会
10月24日	安和区ウシデーク
10月25日	第288回教育委員会定例会
10月26日	沖縄県都市教育長協議会第2回会議・情報交換会
10月27日	沖縄県都市教育長協議会第2回会議・情報交換会
10月29日	【市長表敬同席】第7回全日本SUP選手権大会優勝報告
	文化財保存調査委員会議
10月30日	教育研究所運営審議会
	社会教育委員委嘱状交付式
10月31日	第45回やんばる展オープニングセレモニー

11月1日	教職員評価システム校長面談（中間）
	【教育長表敬】東村教育長来庁
11月2日	教職員評価システム校長面談（中間）
11月3日	名護市職員採用試験（2次）
	【市長代理】平成30年度第9回全国ヴィンテージ8' sバレーボール交流大会
11月5日	教職員評価システム校長面談（中間）
11月6日	第15回B & G全国教育長会議
11月7日	第15回B & G全国教育長会議
11月8日	学校訪問報告
11月9日	沖縄県教育長への要請訪問（中高一貫進学校）
	第355回教育委員会臨時会
	平成30年度第1回名護市総合教育会議
	教育委員懇親会
11月10日	第30回記念ツール・ド・おきなわ2018
	【市長代理】平成30年度国頭地区高等学校PTA研究発表大会
	第30回記念ツール・ド・おきなわ2018 レセプションパーティ
11月11日	第30回記念ツール・ド・おきなわ2018 表彰式典
11月12日	【市長表敬同席】キッズダンスバトル&全国キッズチームダンスコンテスト出場成績報告
11月13日	春の叙勲伝達式
	教職員評価システム校長面談（中間）
11月14日	【教育長表敬】OST企画来庁
	平成30年度名護市区長会行政懇談会・懇親会
11月16日	教育課程特例校研究発表会
	平成30年度善行青少年・青少年育成功労者並びに青少年育成功労者団体表彰式典
11月17日	第10回名護ライオンズクラブカップ北部地区バレーボール小学生大会
11月20日	【市長・教育長表敬】うみのほし幼稚園来庁
	名護市市政50周年記念事業実行委員会
	平成31年度定期人事異動に係る市町村教育委員会教育長ヒアリング（教諭等）
	平成31年度定期人事異動に係る市町村教育委員会教育長ヒアリング（管理職等）
11月21日	平成30年度市町村教育委員会研究協議会
11月22日	平成30年度市町村教育委員会研究協議会
11月26日	【市長表敬同席】名護高校駅伝部・ラグビー部優勝報告
11月27日	防火・防災紙芝居の贈呈式
	【市長・教育長表敬】沖縄県社会教育功労賞受賞報告
11月28日	薬物乱用防止講演会
11月29日	【市長代理】沖縄愛楽園開園80周年記念式典及び祝賀会
	第356回教育委員会議臨時会

11月30日	第39回沖縄県学校体育研究発表大会（国頭地区大会）
	平成30年度国頭地区幼稚園教育課程研究協議会
	【市長代理】第38回中学生人権作文発表会及び人権啓発標語コンテスト表彰式
12月3日	辞令交付式
	学校訪問報告
12月4日	教育委員学校訪問（羽地中学校）
	文化財保存調査委員会
12月5日	人権の花 開花式
12月6日	第193回名護市議会定例会 議案説明
12月8日	第31回名護・やんばるツーデーマーチ出発式
	第31回名護・やんばるツーデーマーチ ウォーカーふれあいパーティー
12月10日	第193回名護市議会定例会 議案質疑
12月11日	第193回名護市議会定例会 一般質問
12月12日	第193回名護市議会定例会 一般質問
12月13日	第193回名護市議会定例会 一般質問
	名護市商工会女性部第42回チャリティーふれあいパーティー
12月14日	【市長同席】沖縄県建設設備協会育英会寄付金贈呈式
	第193回名護市議会定例会 一般質問
12月15日	日本体育大学と北部広域市町村圏事務組合とのスポーツ振興に関する連携協定調印式懇談会
	第3回羽地子ども豊年祭
12月17日	第193回名護市議会定例会 一般質問
	名護ライオンズクラブ忘年会
12月18日	第193回名護市議会定例会 追加議案
	【市長・教育長表敬】東江少年野球チーム優勝報告
12月20日	【市長・教育長表敬】沖縄労働局来庁
	第2回教育研究所運営審議会
	年末年始交通安全県民運動出発式
	【市長・教育長表敬】名護市剣道連盟優勝報告
12月25日	第289回教育委員会定例会
12月26日	子ども夢基金寄附金贈呈（商工会女性部）
12月28日	市長訓示・教育長訓示
1月4日	市長訓示・教育長訓示
	安全祈願祭
	平成31年度名護市新春の集い
1月5日	消防出初式
1月7日	学校訪問報告
1月8日	【教育長表敬】NTTドコモ役員来庁
1月12日	辺野古区合同祝

1月13日	平成31年名護市成人式典
1月15日	緑風学園要請訪問
	国頭地区市町村教育委員会協議会教育長部会
	国・県出先機関の長及び関係団体等と北部市町村との新年会
1月16日	教育研究所運営審議会報告
	朗読劇「金城哲夫伝」
1月17日	名護市育英会寄付金贈呈（北部建築設計協会）
	【教育長表敬】沖縄こどもの国職員来庁
1月19日	平成30年度名護市教育の日
	NAGOハーフマラソン夕食会
1月20日	NAGOハーフマラソン開会式
1月21日	平成30年度文部科学大臣優秀職員表彰報告
1月25日	沖縄県都市教育長協議会第3回会議
	名護さくら祭りに伴う名護市長主催懇親会
1月26日	なごサイエンスフェスタ2019
	名護さくら祭りオープニングセレモニー
	名護市主催友好都市歓迎昼食会
	名護さくら祭りオープニングパレード
	第32回二見情話大会
	名護さくら祭り夜間街頭指導活動出発式
1月27日	瀬喜田小学校創立130周年記念式典
1月28日	実りの森保育園園長・岸本洋平議員来庁
1月29日	屋部中学校新築工事起工式
1月31日	市小中校長研修会
	北部教育研修センター開所式
2月1日	辞令交付式（教育長）
	平成30年度市町村教育委員会教育長・教育委員研修会
2月2日	第25回国頭地区PTA研究大会
2月3日	社会教育シンポジウム
2月4日	県教育委員会との意見交換
	平成30年度第4回市町村教育委員会教育長等連絡協議会
2月5日	臨時議会
	教職員評価システム校長面談
2月6日	教職員評価システム校長面談
2月7日	教職員評価システム校長面談

2月8日	名護市育英会寄付金贈呈（大城誠氏）
	J Aおきなわ養鶏生産部会会長来庁（給食センターへ卵寄贈）
	読谷村立博物館視察
	第20回ライオンズクラブ姉妹クラブ児童交歓歓迎夕食会
2月9日	第29回名護市文化祭オープニングセレモニー
2月12日	教職員評価システム校長面談
2月13日	第45回名護・滝川児童生徒交歓会壮行会
2月14日	議案説明会
2月15日	平成31年度定期人事異動内示（一般）
	学校訪問報告
	県費職員一般内示（交付）
	ファイターズ春季キャンプに伴う札幌市応援団との交流会
2月18日	平成31年度定期人事異動内示（管理職）
2月19日	第290回教育委員会定例会
2月20日	平成31年度定期人事異動内示後の教育長ヒアリング
	名護市海外移住者子弟等研修「修了式及び激励会」
2月21日	校長評価に係る調整
2月22日	校長評価開示面談
	第60回記念NAGOHーフマラソン感謝の夕べ
2月24日	辺野古区総合展示会
	名護市児童劇団定期公演
2月25日	【市長・教育長表敬】東江中学校生徒来庁
	北海道日本ハムファイターズ夕食会
2月26日	【教育長表敬】平成30年度文部科学大臣優秀職員表彰報告（東江小学校）
	第357回教育委員会臨時会
2月27日	臨時議会
	市学推企画・運営委員会並びに総会
3月1日	施政方針・議案説明
3月3日	第26回名護市小学校交流駅伝競走大会
	平成30年度ランドセル贈呈式
3月4日	平成31年度教職員定期人事異動（管理職等）内示書交付式
3月5日	学校訪問報告
3月6日	【教育長表敬】名護ジュニアコーラス代表来庁
3月7日	第194回 名護市議会定例会 一般質問
3月8日	第194回 名護市議会定例会 一般質問
3月9日	屋我地ひるぎ学園卒業式
	安富先生・仲里先生祝賀会

3月10日	安田和男先生瑞宝双光章受章祝賀会
	Keikobar vol.9
3月11日	第194回 名護市議会定例会 一般質問
	第358回教育委員会臨時会
	第9代名護がじゅまる王子お披露目パーティー
3月12日	第194回 名護市議会定例会 一般質問
	【教育長表敬】読書感想文文部科学大臣賞報告（名護中学校）
3月13日	第194回 名護市議会定例会 一般質問
	【市長・教育長表敬】第2回東西女子ラグビー交流大会報告（久辺小学校）
3月14日	第194回 名護市議会定例会 一般質問
3月15日	第194回 名護市議会定例会 追加議案
	【教育長表敬】名護警察署長就任挨拶
3月18日	第194回 名護市議会定例会 議案質疑
3月19日	第359回教育委員会臨時会
3月20日	【市長・教育長表敬】名護高校校長・ラグビー部部長来庁
	名桜大学卒業式並びに大学院修了式
3月21日	中央図書館開館20周年記念式典・人形劇団「かじまやあ」公演
3月22日	防犯ブザー贈呈式
3月24日	平成30年度沖縄・名護ジュニアコーラス定期演奏会
3月25日	第60回NAGOハーフマラソン記念誌発刊座談会
3月26日	沖教組国頭支部要請訪問
	指定文化財指定書交付式（ハル石）
3月27日	国頭地区市町村教育委員会協議会監査
	子ども夢基金寄付金贈呈（金城進氏）
3月29日	辞令交付（指導主事）
	退職者辞令交付式
	退職者離任式

Ⅲ 点検評価 内部評価・外部評価一覧

	具体的施策名	内部評価	外部評価
1	教育環境の整備と支援の充実	B	B
2	学校教育環境整備の充実	B	B
3	小中一貫教育の推進	B	B
4	学校給食の充実	B	B
5	名護市立教育研究所運営の充実	B	B
6	学力向上推進事業の充実	B	B
7	I C T（情報通信技術）を活用した教育の推進	B	C
8	国際社会に対応できる人材の育成	B	A
9	キャリア教育の充実	A	A
10	幼児教育の充実	B	B
11	教育関係機関等との連携	B	A
12	心豊かな人間性を育む教育の推進	B	B
13	人権教育や平和学習の充実	—	—
14	生徒指導の充実	B	B
15	特別支援教育の充実	B	A
16	文化財の保全及び普及活用	A	A
17	博物館活動の充実	B	A
18	市民の市史づくり	B	B
19	新博物館の建設	A	B
20	市民に開かれた利用しやすい図書館運営	A	B
21	全市民へ公平なサービスの提供	B	B
22	市民会館事業の充実	A	A
23	次世代の芸術文化を担う人材育成の推進	B	A
24	中央公民館の充実	B	B
25	地域公民館の充実	B	B
26	スポーツ活動事業の推進	B	B
27	青少年のスポーツ活動の推進	B	B
28	競技スポーツの推進	B	B
29	社会体育施設の整備	B	B
30	青少年の健全育成事業の充実	B	B
31	家庭教育の支援	B	B
32	地域の教育力の充実	B	B
33	社会教育団体の活性化	B	B

具体的施策名	1. 教育環境の整備と支援の充実	主管課	総務課 学校教育課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	I	より良い教育環境の形成
					個別目標	1	より良い教育環境の整備
					具体的施策	(1)	教育環境の整備と支援の充実

目的	教育委員会事務局並びに市立幼稚園、小学校及び中学校の教育環境の整備と支援の充実を図る。
----	---

主な取組	① 「名護市教育の日」の充実 取組の内容: 1月第3日曜日を「名護市教育の日」と定め、式典やシンポジウムを行う。また、1月を「名護市教育月間」と定め、様々な関連行事を開催する。	平成27年度現状				現状をもたらした原因					
		「名護市教育の日」が市民へまだ浸透していない。				認知度不足。市民や保護者を巻き込んだ取組が必要。					
		目標		目標		取組概要		成果及び反省点			
		令和元年度	「教育の日」の認知度を上げ、市民を巻き込んだ運動へとつなげる。		平成30年度	式典及びイベント参加者数の増を目指し、「教育の日」の認知度を上げる。		<ul style="list-style-type: none"> 平成31年1月19日に式典及び子どもを中心とした読書普及イベント(ミニブリオバトル)の開催(参加者491人※パンフレット配布枚数) 教育功労者個人8人、1団体、児童生徒表彰個人32人、4団体 幕間には沖縄県青少年読書感想文・感想画コンクール優秀作品について、児童・生徒本人から紹介。 読書普及イベント(ミニブリオバトル)を開催し、中学生5名が参加し、書評合戦を繰り広げた。 教育の日関連事業: 5事業 	参加者が目標の700人に届かず、昨年よりは20名ほど多い状況であった。前年度の反省を踏まえイベントの周知・募集は早い段階で行った。事後アンケートにおいては9割以上の方から高評価をいただき、学校でも取り組みたいなどの多くの意見が寄せられた。しかし、一般市民の教育に対する関心を深めるという目的としては、一般市民の参加が少なく、教育の日の在り方自体見直す必要がある。そこで令和元年度には学校アンケートを実施し、教育の日の持ち方を再検討する。		
			目標値	1,000人 5事業		目標値	700人 5事業		実施値	491人 5事業	
		成果指標	式典及びシンポジウムの参加者 教育の日関連事業の実施数								
		② 学校評議員制度の充実 取組の内容: 地域住民の学校運営への参画を促し、また学校運営について地域へ周知するための学校評議員制度を充実させる。		平成27年度現状				現状をもたらした原因			
		全学校に学校評議員会が設置されている。年1回委嘱状の交付式並びに研修会を開催し、講師を招き「学校評議員の役割と目指す方向」という演題で講話、充実を図っている。				学校評議員にその役割を理解してもらいたい、学校評議員制度の充実を図る必要がある。学校教育法施行規則等の一部を改正する省令(平成12年4月1日施行)学校・家庭・地域が連携協力しながら一体となって子どもの健やかな成長を担っていくため、地域に開かれた学校づくりをより一層推進する観点から、学校に、学校評議員を置くことができるようになった。					
		目標		目標		取組概要		成果及び反省点			
		令和元年度	学校評議員制度の更なる充実を図る		平成30年度	学校評議員制度の更なる充実を図る		学校評議員委嘱状交付式並びに研修会の実施 学校評議員会の開催(各学校2回)	委嘱状交付式並びに研修会の参加率を高める工夫が必要		
目標値	年2回以上 100% 95%		目標値	全学校2回 100% 80%		実施値	全学校2回 92% 60%				
成果指標	学校評議員会の開催状況 評議員の学校評議員会への参加率 学校評議員の研修会への参加率										
③		平成27年度現状				現状をもたらした原因					
		目標		目標		取組概要		成果及び反省点			
令和元年度			平成30年度								
	目標値			目標値		実施値					
成果指標											

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	B					
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	①・「教育の日」の制定は大きな意義があり市民の教育力向上に貢献しているが、教員や保護者以外にも、地域の声を収集し啓発活動を行うなど、より多くの市民が参加できるよう、具体的工夫が必要である。 ・ミニブリオバトルの開催は前年度より更に盛り上がり良かった。後日、新聞にも掲載されており、そのような記事も学校だより等で知らせることで周知につながる。 ②・評議員として担う役割の認識の持ち方を考える必要がある。							

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	B					
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	①・教育の日の実施内容について、試行錯誤しながら多様な取り組みがなされていることは評価できるが、参加者の少ないものは実施しないなど、今後も事業内容の検討が必要。 ・「教育の日」の根本的な見直しを行い、式典のみにこだわらず、市民も巻き込んだ活動となるよう、児童生徒や市民が参加しやすい、全体的な展開も検討してみよう。 ②・学校評議員会のコミュニティースクールへの発展的解消の道筋が示されると良い。							

具体的施策名	2. 学校教育環境整備の充実	主管課	教育施設課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	I	より良い教育環境の形成
					個別目標	1	より良い教育環境の整備
					具体的施策	(2)	学校教育環境整備の充実

目的	子ども達にとってより良い教育環境の提供を行なうため、その支援と充実を図る。
----	---------------------------------------

① 学校施設設備及び遊具等の整備・修繕	平成30年度現状				現状をもたらした原因					
	取組の内容: 学校からの整備設置修繕要請を受け現場調査を行い、整備及び修繕を行なっている。また、年に1回教育施設課職員による、施設及び遊具の点検を実施している。		幼稚園21件、小学校101件、中学校47件、合計169件の修繕対応(事務局執行分予算のみのため、施設課職員及び学校予算対応分については含まれません)遊具修繕が小学校5件、幼稚園3件、遊具の新規購入が小学校2件となっている。		施設設備の経年劣化によるものが原因と考えられる。					
	目標	目標	取組概要	成果及び反省点						
成果指標	施設・遊具不備による事故件数	0件	0件	<ul style="list-style-type: none"> ・修繕要請に基づく修繕対応 ・教育施設課職員による学校施設、遊具の定期的な点検の実施(年1回) ・日常的な点検については学校側で行ってもらう旨の周知 ・学校施設全35校にあるブロック塀について、耐震対策及び劣化・損傷の状況にかかる安全点検を実施 	施設・遊具等による事故は0件であった。施設・遊具点検については、年度の後半の実施となったため、次回は早期に実施したい。引き続き、事故防止に向けて、日常的な点検の徹底、周知に努めたい。 学校からの要請件数、462件に対し344件対応済、対応率は、74.46%となっている。 ブロック塀等の安全点検等状況調査の結果、学校施設全35校中31校にブロック塀が設置されており、全長3,126mに対し、安全対策が必要なものは2,708mとなっている。令和元年度は補助事業に該当する205mの安全対策を実施し、残りについては事業化へ向けた整備計画を策定する必要がある。					
	教育施設課職員による全学校年1回施設・遊具点検	年1回	年1回			実施値	0件	年1回		
	ブロック塀等の安全点検等状況調査及び安全対策	205m	全校			実施値	全校			
② 小・中学校のグラウンド整備	平成30年度現状				現状をもたらした原因					
取組の内容:たくましく心豊かな子供たちを育成するため、屋外教育環境(グラウンド)の一体的な整備充実を図る。	平成30年度は1校のグラウンド整備工事に着手したが、年度内完了が困難となり、次年度へ繰越すこととなった。				<ul style="list-style-type: none"> ・既存グラウンドの改修設計であることから、既存構造物(側溝や建物等)を考慮した配置計画及び排水計画に不測の日数を要し、履行期間を延長することとなった。 ・児童数に対して学校敷地が狭小であり体育の授業や児童の運動スペースを確保する必要が生じたことから、工事範囲を分割して施工することとなったため、施工の手間がかかり、工期に影響を及ぼしている。 					
成果指標	グラウンド整備を実施した学校数	1校	1校	名護小学校屋外教育環境整備事業 整備面積:5,800㎡ 整備内容:クレイ舗装、暗渠排水、周辺側溝、幅跳び砂場等	設計業務においてグラウンド排水計画の見直しや学校側との調整に不測の日数を要したことから、工事着手が遅れ年度内完了が困難となった。					
		目標値	目標値			実施値	0校			
③	平成27年度現状				現状をもたらした原因					
成果指標		目標値	目標値							

-19-

主な取組

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
	総合評価 (A・B・C・D)	B	B							B	B							
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	①・事故件数は0件で良かったが、経年劣化による事故防止のための年次の整備計画の作成が必要。 ・学校からの要請は出来る限り100%の対応を望む。 ・ブロック塀の安全対策整備計画を早急に進め、可能であれば通学路の点検も行ってほしい。								上記評価とした理由又は特記すべき事項	①・安全面に関しては早急な整備をお願いしたい。 ②・学校グラウンドの整備については、排水やくぼみなど、日常的な課題をかかえる学校も多いのではないかと。そのため、個別の課題への対応も努力されたい。							

具体的施策名	3. 小中一貫教育の推進	主管課	学校教育課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	I	より良い教育環境の形成
					個別目標	1	より良い教育環境の整備
					具体的施策	(3)	小中一貫教育の推進

目的	二見以北地域及び屋我地地域の子どもたちにとって、より良い教育環境を提供する。
----	--

主な取組	① 「緑風学園」の教育活動の充実 取組の内容： 小規模特任校制度や教育課程特例校（英語科）を導入した特色ある教育活動の実施。	平成27年度現状				現状をもたらした原因					
		再び複式学級に陥らないよう特色ある学校づくりを行うため、平成21年度から教育課程特例校制度や小規模特任校制度を導入した小中一貫教育校の開校に向け、当該事業の取組を開始した。小規模特任校制度等を活用し転入学する児童生徒数は、H24年度1人、H25年度17人、H26年度2人、H27年度4人と推移している。				更なる教育環境の充実を図るため、緑風学園の特色ある教育活動の取組・実績を周知し、小規模特任校制度を活用するなど児童生徒増を図るための周知が必要である。					
		成果指標	目標		令和元年度	目標		平成30年度	取組概要		成果及び反省点
			特色ある教育活動を実施し、児童生徒数の増を目指す。			特色ある教育活動を実施し、児童生徒数の増を目指す。			①非常勤講師1人を配置し、小中一貫教育の研究を行う本務教諭の後補充やTT授業を実施した。 ②特色ある教育活動の一つである英語教育の充実を図るため、日本人英語教師1人を配置し、学級担任とALTとの繋ぎを主体的に行い、より充実した英語教育を実施した。 ③中学生を対象に、年3回実施される英検のうち、その検定料を一人年1回全額助成を実施。児童生徒一人一人に基礎的基本的な知識・技能を身に付けさせるため、TT授業や乗り入れ授業等により個別指導の徹底を行った。また、裁量の時間を活用した補習指導、長期休業中の学び直しを全職員体制で計画的に行った。 英語科の授業では、学級担任とALT、JTE及び中学校英語教師によるTT授業や実技教科における部分的イマージョン教育の実施、小学校から文字指導を行った。 児童生徒一人一人の社会的・職業的な自立を目指し、キャリア教育を学校教育全体を通じて体系的に実施するとともに、自然体験学習や稲作等で地域人材等の活用を推進した。	開校から7年を経過したが、教職員の異動等もあり、今一度、開校当時の理念を教職員間で共通理解する必要が生じている。	
			小規模特任校申請児童生徒数	10人		10人					
			非常勤講師の配置	1人		1人					
			日本人英語教師（JTE）の配置	1人		1人					
			沖縄県到達度調査（8年生5教科総合県比較）	+8		±0					
		英検合格率（3級以上）	50%	45%							
		職場体験・ジョブシャドウイング参加率	100%	100%							
実施値	7人	1人	1人	+2.1	43.2%	100%					
② 「屋我地ひるぎ学園」の教育活動の充実 取組の内容： 小規模特任校制度や教育課程特例校（英語科）を導入した特色ある教育活動の実施。		平成27年度現状				現状をもたらした原因					
屋我地小中学校に通う児童生徒数が減少傾向にある。2年と3年において複式学級となっている。				屋我地地域における過疎化及び少子化により児童生徒が減少したことによる。							
成果指標	目標		令和元年度	目標		平成30年度	取組概要		成果及び反省点		
	児童生徒数の増 複式学級の解消			特色ある教育活動を実施し、児童生徒数の増を目指す。			①児童生徒一人一人に基礎的基本的な知識・技能を身に付けさせるため、TT授業を中心に個に応じた指導の徹底を行った。また、裁量の時間を活用した補習指導、長期休業中の学び直しを全職員体制で計画的に行った。 ②特色ある教育活動の一つである英語教育の充実を図るため、日本人英語教師1人を配置し、学級担任とALTとの繋ぎを主体的に行い、より充実した英語教育を実施した。 ③中学生を対象に、年3回実施される英検のうち、その検定料を一人年1回全額助成を実施。 ④英語科の授業では、学級担任とALT、JTE及び中学校英語教師によるTT授業を実施。	非常勤の乗り入れ授業が少なかった。			
	小規模特任校申請児童生徒数	27		20							
	沖縄県到達度調査（8年生5教科総合県比較）	±0		-4.5							
	英検合格率（3級以上）	50%		35%							
	小学校英語学力調査（5年生）	90%		85%							
小学校英語学力調査（6年生）	80%	80%									
実施値	26人	-9.3	27.3%	89.3%	90.8%						
③		平成27年度現状				現状をもたらした原因					
		目標		平成30年度		取組概要		成果及び反省点			
成果指標		目標値	—	目標値	—	実施値	—				

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	B					
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	①・反省点にもあるが、今一度開校理念を再認識して教職員間の意識改革を行い、理念を遵守した教育活動を進める必要がある。このままでは、特色ある学校の魅力が減少し、児童生徒の増加が見込めず統合前に戻ってしまうという危機感を持つべきである。							

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	B					
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	①・設立当時の教育理念が受け継がれることが大切である。また、卒業生がどのような進路に進んでいるのか、追跡調査も必要だと考える。 ②・乗り入れ授業への「消極」については、特認校としての意識を高める経営にかかる指導が望まれる。							

具体的施策名	4. 学校給食の充実	主管課	総務課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	I	より良い教育環境の形成
					個別目標	1	より良い教育環境の整備
					具体的施策	(4)	学校給食の充実

目的	子どもたちにより安全・安心な学校給食の提供を行うため、その支援と充実を図る。
----	--

① 学校給食施設の再整備	平成27年度現状				現状をもたらした原因							
	市内にある5つの学校給食施設は全て老朽化が進んでおり、かつ、学校給食衛生管理基準を満たしていない。平成21年に「名護市学校給食施設再整備基本計画」を策定し、建設に向けて取組を進めているが、計画より遅れている。								施設の老朽化及び備品の劣化により、学校給食衛生管理基準を満たせる機能を備えきれていない。予算確保の課題があり、その課題解消のための検討を行っているため、当初の計画より遅れている。			
	令和元年度	目標	平成30年度	目標	取組概要	成果及び反省点	実施値	反省点				
取組の内容: 名護市立学校給食施設再整備基本計画(平成21年3月策定)に基づき、老朽化した学校給食施設(5か所)を2か所に再編する。 また、新しい学校給食施設においてアレルギー対応の対象食材、除去食調理体制の検討と調理及び配送の民間委託の検討を行う。	1施設 1室 1カ所 —	1施設 1室 — —	1施設 1室 — —	第一学校給食センターの実施設設計及び造成工事の実施については、平成28年度の造成設計委託業務において、建設予定地の地盤の一部が軟弱であり、当初予定していた擁壁の工事費が大幅に増大することが分かった。そのことから、建設予定地に隣接している窪地(市有地と民有地)に造成工事から発生する残土を埋めることで擁壁の建造をせず、また残土処理費用を縮減することができることから、地権者と用地交渉を実施。 ・建設の方法、新たな建設候補地について検討。	・隣接地主との用地交渉の要件が折り合わず交渉打ち切りを決定。第一学校給食センター完成の予定が遅れることとなった。 ・建設の方法、新たな建設候補地の決定については次年度実施。	0施設 0室 — —	—	—				
									成果指標	新学校給食センターの建設件数	アレルギー対応調理室の設置	第二センターの候補地の決定
									実施値	—	—	—
② 学校給食における安全な食材の使用及び地産地消の推進	平成27年度現状				現状をもたらした原因							
平成27年度 名護市産農産物使用率 21% 地域地産地消連絡協議会3回開催								積極的に名護市産農産物を取り入れているが、不足する分については、県内産、国内産など近い地域の食材を選定して納品している。				
令和元年度	目標	平成30年度	目標	取組概要	成果及び反省点	実施値	反省点					
取組の内容: 栄養士、栄養教諭を中心に学校全体で食育に取り組むとともに、農産物をはじめとした地元の食材を使った給食を提供できるよう、関係機関と連携を図る。	名護市産農産物の割合の増加を目指す。 25%	25%	名護市産農産物の割合の増加を目指す。 23%	市内幼小中学校の献立表の作成 食育に関する授業の実施 学校給食納入業者登録制度(登録業者:39業者、内名護市内業者:25業者) 農作物、農産加工品等に関する情報交換等の実施	名護市産の農作物は季節や品種によって確保する量にばらつきがあり、名護市産以外の食材と比較すると単価が高い事、必要な数量を取り揃える事が困難である事があるため、使用率が横ばいとなっている。	18.5%	—					
								成果指標	名護市産農産物の割合			
								実施値	—			
③ 名護市立学校給食費補助	0				現状をもたらした原因							
3人目補助の交付 96%								過去2年間に未納がないことが給食費補助の条件であるため、補助制度の活用が徴収率の向上にもつながっている。				
令和元年度	目標	平成30年度	目標	取組概要	成果及び反省点	実施値	反省点					
取組の内容: 名護市立の小学校及び中学校に在籍している児童生徒が3人以上いて過去2年度において、給食費の未納がない保護者を対象に、3人目以降の在籍児童等の学校給食費保護者負担分を補助金交付する。	該当世帯の学校給食費未納をなくし、すべての対象者に補助金を交付する。 100%	100%	該当世帯の学校給食費未納を減らし、補助金交付率の向上を目指す。 96%	3人目以降の在籍児童等に係る学校給食費補助金交付をおこなった(461人) 過去2年間に未納がある世帯については、納付相談等を行い、計画的に支払うよう指導を行った。	過去2年間に未納がないことが給食費補助の条件であるため、補助制度の活用が徴収率の向上にもつながっている。	95.4%	—					
								成果指標	交付率			
								実施値	—			
④ 学校給食費徴収率の向上	平成27年度現状				現状をもたらした原因							
平成27年度徴収率 94%								保護者への給食費徴収に関する周知を徹底し、徴収率は徐々に向上している。収納業務がシステム化されておらず、事務手続きに時間がかかっている。				
令和元年度	目標	平成30年度	目標	取組概要	成果及び反省点	実施値	反省点					
取組の内容: 学校給食費の充実を図るために徴収体制の強化をはかる。	納付相談等を実施し、学校給食費徴収率の向上を図る。 95%	95%	納付相談等を実施し、学校給食費徴収率の向上を図る。 94%	保護者への口座振込手続き 未納者への督促・勧告 未納者への納付相談及び指導 未納者への誓約書締結 未納者への戸別訪問 未納者への法的措置	5月、給食費の管理システムを新システムへ移行した。徴収した学校給食費の管理が一元化され、事務手続きが簡素化されたことにより徴収率が向上し、保護者負担も軽減された。	95.1%	—					
								成果指標	徴収率			
								実施値	—			

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	総合評価 (A・B・C・D)	C	B	B	B			
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	①・第一給食センターの計画から数年経過しているが、なかなか進行していない。建設予定地の問題や地権者との交渉は大変な労力を要すると思うが、もっと交渉に力を入れて早急に建設を進め、素晴らしい施設の完成を期待する。 ・各給食センター間の格差は正に努めてほしい。						

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	総合評価 (A・B・C・D)	C	C	B	A			
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	①・用地選定等難しい問題だと思うが、早急な完成を願う。 ②・「安心安全」な給食の提供の推進と継続は必要だが、地産地消にこだわり過ぎていように感じる。安く安全な食材の量の確保の点からは地区外の食材を積極的に使うこともよいと思う。						

具体的施策名	6. 学力向上推進事業の充実	主管課	学校教育課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	I	より良い教育環境の形成
					個別目標	2	確かな学力を身に付けさせる教育の推進
					具体的施策	(1)	学力向上推進事業の充実

目的 児童生徒に「生きる力」を育み、確かな学力を身に付けさせるため、学力向上に向けた取り組みの充実を図る。

① 学力向上推進委員会の充実	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	取組の内容 学校・家庭・地域ぐるみで学力向上に取り組むために、基本的な生活習慣や学習規律について、幼小中共同実践事項を掲げ、学校・家庭・地域が連携した取組を行う。				保護者や地域の生活習慣づくりに向けた意識高揚には、地域ぐるみでの活動が必要である。			
成果指標	地域教育懇談会への参加者	令和元年度 目標値 1,300人	平成30年度 目標値 1,000人	取組概要 地域教育懇談会の実施(各中学校区で設定) 総会(1回)、運営委員会(3回)、2部会(6回)の実施 リーフレットを作成し、全児童生徒に配布	成果及び反省点 組織を改正し、企画運営に全学校教頭が参加した事により、周知徹底は図られた。	実施値	971人	
② 学習支援ボランティアの配置	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	学習支援にあたる名桜大学学生へ1人1回1,000円の報償費を支給。H25年度延べ710人、H26年度延べ748人、H27年度延べ688人配置。				平成25年5月「名護市学習支援教室びゅあ」が名桜大学教職講義室に開校。周知等により目標参加者数の確保ができていない。			
成果指標	「びゅあ」学生ボランティア参加人数(延べ) 大北小学習支援への報償金執行率 子育て支援塾への報償金執行率 学習支援教室への参加中学生数(延べ) 参加生徒の高等学校等進学率	令和元年度 目標値 1,200人 100% 100% 1,600人 100%	平成30年度 目標値 1,300人 80% 80% 1,500人 100%	取組概要 要保護及び準要保護世帯の中学生を対象に「びゅあ」への参加生徒を募集 H30年度 登録中学生数=6月時点59人、最終登録者数=93人、延べ参加人数1464人 学習支援ボランティア(名桜大生)への報償費支給。 学生ボランティア登録者数32人 参加生徒の高等学校等進学者(85人中80人:94.11%)	関係機関との連携(社会福祉課保護係、社会教育課)	実施値	860人 1464人 94.11%	
③ 読書活動の充実	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	・小学校図書購入費=5,149千円 中学校図書購入費=4,696千円 ・学校図書司書研修会の開催(毎月第3火曜日の午後を基本開催日としている。)				・例年、名護市校長会からの要望事項として、図書購入費の増額が求められている。 ・各小・中学校に配置されている学校図書司書は、1人区の職種であることから司書間の連携、資質向上を図る研修会が必要である。			
成果指標	小学校図書購入費の執行率 中学校図書購入費の執行率 学校図書司書研修会の開催	令和元年度 目標値 100% 100% 12回/年	平成30年度 目標値 100% 100% 12回/年	取組概要 ・児童生徒の読書活動の推進に資するため、学校図書購入費については①学校割②学級割③児童生徒割の三つを積み上げ、各学校規模に応じた予算配当を行っている。 ・毎月1回、学校図書司書研修会を開催し、司書間の情報共有・連携を図るとともに資質向上を図るため、毎月テーマを定めた研修会を実施。	「学校図書図書標準の達成状況」及び現状の実態把握	実施値	99.99% 99.99% 12回/年	
④ 授業力向上に向けた取組の充実	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	学校特任アドバイザーによる研修会での講話や校内研修等での助言への評価は非常に高く、教職員の意欲や授業力向上に繋がっている。また、各種研修会等は、教員の意欲向上や授業力向上に繋がっている。				教職員の資質向上は教育という活動の性質上、常に継続して行う必要がある。			
成果指標	授業が「わかる」子どもの率(小) 授業が「わかる」子どもの率(中) 全国学力調査の県平均以上達成校数(小) 全国学力調査の県平均以上達成校数(中)	令和元年度 目標値 国82.0 算82.0 国75.0 数72.0 全校 全校	平成30年度 目標値 80 68 国4校 算4校 国3校 数2校	取組概要 (各種教科等研修会の取組) ・市教科主任等研修会の実施 ・市道徳研修会、特活研修会の実施(各小中で2回) ・市教育講演会の実施(1回:文科省調査官招聘) ・市情報教育研修会の実施(3回) ・管理職及びミドルリーダー研修会の実施(文科省調査官招聘) ・市算数・数学研修会の実施(2日間) ・市国語研修会の実施	各種研修会や学校訪問は計画的に推進できたが、児童生徒への効果を波及させる取組が必要である。	実施値	79.3 61.9 国A7校B7校 算A8校B6校 国A0校B0校 数A1校B0校	
⑤ 学習指導支援者の配置	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	12校へ12人を配置				人材確保のため給与を見直したため給与増の分人数が減った			
成果指標	全国学力調査の県平均以上達成校数(小) 全国学力調査の県平均以上達成校数(中) 「成果があった」と内容報告があった学校	令和元年度 目標値 全校 全校 100%	平成30年度 目標値 算4校 数2校 100%	取組概要 各学校の現状を考慮し、学習指導支援者20人を配置した。算数・数学の授業における児童生徒への学習支援。放課後及び長期休業日等における補習指導。教材教具の作成補助。授業におけるICT支援及びWeb入力等。	給与を見直したため年度当初から予算確保人数を配置することができた。	実施値	算数A(4校)算数B(7校) 数学A(1校)数学B(0校) 100%	
⑥ 市研究指定の充実	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	各校やグループでの研究には一定の成果があるが、研究成果の他校への還元が十分でない				研究成果の周知不足			
成果指標	研究の成果を積極的に教育活動に反映させる学校(小) 研究の成果を積極的に教育活動に反映させる学校(中) 指定校・指定グループ数	令和元年度 目標値 50% 40% 9校(グループ)	平成30年度 目標値 40% 20% 8校(グループ)	取組概要 ①小中一貫教育特別指定(屋我地ひるぎ学園、緑風学園) ②学校指定(名護中学校・名護小学校・大北小学校) ③グループ指定:5グループ(国語、算数・数学、英語、社会、道徳) ④講演会・研究発表会の実施	指定研究の成果の還元(グループ研究のリーフレット作成、研究成果をHP掲載)	実施値	100% 100% 10校(グループ)	

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	B	A	B	B	A	
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	・学力向上に向けた取り組みは評価出来るが、沖縄一位を目指すには、何が不足かを検討する必要がある。 ①・抜本的な方策が必要。						

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	B	A	B	B	B	
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	・次年度以降の新しい目標を立てる際に、数値目標の設定に再考が必要。 ①・地域教育懇談会の見直しが必要。 ④・学力向上に係る様々な取り組みは評価できるが、中学生に対する支援は、目標に対して達成が不十分であると考えられ、多面的な取り組みが望まれる。 ⑥・市研究指定の還元の方法については、成果が教師個々に反映されるよう、更に工夫が必要。						

具体的施策名	7. ICT(情報通信技術)を活用した教育の推進	主管課	学校教育課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	I	より良い教育環境の形成
					個別目標	2	確かな学力を身に付けさせる教育の推進
					具体的施策	(2)	ICT(情報通信技術)を活用した教育の推進

目的	ICT(情報通信技術)を活用した効果的・効率的な「分かる授業」実践を行うと共に、教育の情報化を図り教師の負担軽減及び教師や児童生徒のICT活用能力を高め学力向上を図る。
----	--

主な取組	① ICT教育環境の整備 取組の内容: ICT機器を活用した効果的・効率的な授業の実践により児童生徒の学習意欲、ひいては学力向上を図るため、各学校の実態に応じたICT機器の整備、教育の情報化を進める。	平成27年度現状				現状をもたらした原因								
		・小学校教科書改訂に伴うデジタル教科書の購入 ・緑風学園及び屋我地小・中、大宮中へのICT機器の整備 ・小学校及び中学校における教育の情報化の推進を図るための年次的な計画が策定されていない。				・21世紀を生きる子どもたちに求められる力の一つに「情報活用能力」が挙げられる。情報通信技術を効果的に活用した分かりやすく深まる授業の実践のため、ICT環境整備が求められている。 ・計画の策定については、策定を行うに当たっての組織の検討などに時間を要している。								
		成果指標	実物投影、プロジェクターの設置		令和元年度	目標		平成30年度	目標		取組概要 平成27年度小学校使用教科用図書(教科書)の改訂に伴い、市内13小学校の4~6年生を対象とした主要教科①国語②算数③理科④社会⑤地図のデジタル教科書を購入・整備を目的とした学習環境の整備。 緑風学園 タブレット端末21台、電子黒板2台、一部無線LANの整備 屋我地小 タブレット端末20台、電子黒板2台、一部無線LANの整備 屋我地中 タブレット端末21台、電子黒板2台、一部無線LANの整備 大宮中 書画カメラ4台、ユニット型電子黒板4台を整備	成果及び反省点 小中一貫校に配置できた		
			無線LAN、タブレットの整備			全22校校に設置	4校に設置		21校/21校	21校/21校			実施値	21校/21校
			名護市教育情報化推進計画(仮)の策定			目標値	目標値		4校/21校	—			—	—
		② ICTを活用した授業の充実 取組の内容: 市情報研修会でICTを活用した授業研究などを行い、教師及び児童生徒のICT活用能力を高め学力向上を図ります。		平成27年度現状				現状をもたらした原因						
		・タブレットPC、電子黒板、デジタル教科書を利用した授業の活用を図るため年に3回のICTを利用した公開授業を実施。				授業での活用能力向上を目指して研修会を実施している。								
		成果指標	デジタル教科書の活用率(小学校)		令和元年度	目標		平成30年度	目標		取組概要 情報研修会の実施(3回) ①ホームページの活用 ②情報セキュリティについて ③情報セキュリティポリシー手順書の作成 ④道徳の授業でICTを活用した事例紹介 ⑤ICTを取り入れた効果的な授業実践	成果及び反省点 デジタル教科書及びICT機器の活用に関する検証。		
			デジタル教科書の活用率(中学校)			デジタル教科書の活用率	デジタル教科書の活用率		100%	80%			実施値	53%
						目標値	目標値		100%	80%			—	64%
		③		平成27年度現状				現状をもたらした原因						
		取組の内容:												
		成果指標			令和元年度	目標		平成30年度	目標		取組概要	成果及び反省点		
						目標値	目標値						実施値	
		④		平成27年度現状				現状をもたらした原因						
取組の内容:														
成果指標			令和元年度	目標		平成30年度	目標		取組概要	成果及び反省点				
				目標値	目標値						実施値			

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	B					
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	①・ICT教育環境の整備は評価できる。 ・小中一貫校でのタブレット配置ができ良かったが、整備の進捗が停滞しており、教育の平等の観点から全校で早めの配置を望む。 ②・機器の活用を強化する必要がある。 ・教師の力量により活用に差がある。							

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	C					
	総合評価 (A・B・C・D)	C						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	①・ICT教育環境については、導入が徐々に進み、整備努力されている。 ②・ICTを活用した授業の充実は、目標に対して達成が不十分であり、まだまだ課題があるように見られる。成果指標や目標の再考が望まれる。 ・今後はICTの活用が重要になるため、教員のスキルアップの工夫をお願いしたい。							

具体的施策名	8. 国際社会に対応できる人材の育成	主管課	学校教育課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	I	より良い教育環境の形成
					個別目標	2	確かな学力を身に付けさせる教育の推進
					具体的施策	(3)	国際社会に対応できる人材の育成

目的 グローバル化が進展する現代において、学校教育においても新たな英語教育の在り方が求められている。英語学習や異文化理解をとおし幅広い視野を持ち、異なる価値観を理解し互いに尊重し合える人材育成を目指す。

① 中学生海外短期留学事業	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	取組の内容: 市内全中学生を対象に募集を行い、選考試験により概ね12人を選考し、夏休み3週間程度をハワイ州ハワイ郡ヒロ及びホノルルへ派遣している。	派遣者の選考試験(筆記試験、面接)を1日で行っていたが、日程が厳しく面接に十分な時間が取れなかった。				応募者が増になったことや、学校での授業時数確保に配慮し、選考試験を1日で実施したため。		
成果指標 本事業への応募者数 派遣者数 研修内容について良いと答えた生徒(率)	令和元年度	目標		平成30年度	目標		取組概要 31人の応募者から選考試験を実施し、夏休み8/2~8/23の約3週間名護市の姉妹都市ハワイ郡ヒロ及びホノルルへ12人を派遣した。現地では、県人会との交流会、語学研修、学校訪問(2校)など、体験活動等を実施した。また、派遣者に対しては事前研修会8回、事後研修会5回を実施。帰国後は、帰国報告会と報告書による報告を行った、	成果及び反省点 他の自治体では実施していない研修内容が多く事前研修や現地で研修が充実してきた。
		目標値	40人		目標値	40人		
		目標値	12人		目標値	12人		
実施値		100%		100%	実施値		31人	
								12人
								100%
② 小・中学校英語支援員の充実	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
取組の内容: 各小中学校へ支援員を派遣し、小学校の外国語活動や中学校の英語の授業における指導補助、教材作成、各種コンテスト等への指導を行う。	ALT9人を市内小・中学校へ配置。小中一貫教育校は常勤で1人配置。中学校への配置が十分でない。				小学校に100%配置していることや小中一貫教育校へ(緑風・ひるぎ)へ常勤として配置しているため。			
成果指標 英語支援員(ALT)の派遣者数 ALTが児童の学習意欲向上に効果があると答えた小学校数 ALTが生徒の学習意欲向上、授業づくりに効果があると答えた中学校数	令和元年度	目標		平成30年度	目標		取組概要 ・市内小中学校へ小中英語支援員(ALT)10人を配置し、外国語活動、英語の授業、名護市短期留学研修会、各種コンテスト等の支援を行った。 ・月1回のALTミーティングを実施。 ・小中英語支援員・英語教育担当者研修会全6回を実施。 ・海外短期留学派遣事業事前・事後研修会への参加。	成果及び反省点 各種コンテストへの対応について、ALTを効果的に活用している。しかし、日頃の授業におけるALTの活用については課題がある。
		目標値	16人		目標値	10人		
		目標値	13校		目標値	13校		
実施値		8校		8校	実施値		10人	
								13校
								8校
③ 英語検定料一部補助	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
取組の内容: 小中一貫教育校(緑風学園、屋我地ひるぎ学園)を除く6校の全中学生を対象に英検の一部補助(年に1度受験級の半額補助)を実施。	学校の在籍数に応じて同じ割合で予算を分配したが、学校間で活用率に開きがある。				地域から検定料に対する補助金交付のある学校については活用率が低い。また、学校間で活用に対する意識の違いや取組の差が伺える。			
成果指標 英検料補助金活用率 英検合格率	令和元年度	目標		平成30年度	目標		取組概要 4~6月助成金の申請・交付 6月第1回英語検定実施、10月第2回英語検定実施、1月第3回英語検定実施 2月実績報告、補助金交付決定額の通知	成果及び反省点 昨年度に比べ活用率は低下しているが、学校間で差があるので、引き続き担当者への声かけを行う。
		目標値	90%		目標値	75%		
		目標値	60%		目標値	50%		
実施値				実施値			70%	
								51%
④ 小・中学校英語体験学習	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
取組の内容: 市内小学生を対象に募集を行い、中学年、高学年それぞれ概ね36人を決定し、さまざまな英語活動や外国人との交流を行う。英語によるコミュニケーションへの積極的な態度と英語に対する興味・関心を高める。	小学生については応募者が多かった。学校間の参加者の偏りがあったため、対象者により公平であるために募集方法の検討が必要。 中学生については募集人員に対して応募者が少なかった。				募集方法が応募先着となっていたため、学校または学級担任の対応の差により保護者への周知が遅れたため。 中学校は部活動の大会との重なり、中3にとっては受験との関わりから応募者数が少なかったと考えられる。			
成果指標 本事業への参加者数(小学校) 本事業への参加者数(中学校)	令和元年度	目標		平成30年度	目標		取組概要 8月11日(土)中央公民館にて実施(中学生) 2月16日(土)名護青少年の家にて実施(小学生:低中学年) 2月23日(土)名護青少年の家にて実施(小学生:高学年) (英語によるさまざまな活動(ゲーム、劇鑑賞、寸劇作り等)をとおして、外国人と交流する。)	成果及び反省点 前年度は小学生のみ実施だったが、今年度は回数を増やし、中学生にも実施し、体験できた児童生徒数が増えた。
		目標値	36人		目標値	36人		
		目標値	36人		目標値	30人		
実施値				実施値			84人	
								36人
⑤ 小学校英語学力調査の実施	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
取組の内容: 小学校において外国語活動が実施されている5、6年生を対象に小学校英語学力調査を実施している。児童の英語学習に対する興味・関心を高め、中学校英語への円滑な接続を図ると共に、客観的な評価を行うことにより指導の工夫改善に資する。	テスト結果、分析がその後の授業改善に活かされているか点検することができていない。				学校訪問、授業参観が十分でないため。			
成果指標 5年生正答率 6年生正答率	令和元年度	目標		平成30年度	目標		取組概要 説明会の実施(1月) 小学校英語学力調査の実施(2月) 各学校へ結果通知(3月)	成果及び反省点 初めて小学校英語学力調査を実施し、目標値に近い結果であった。
		目標値	85%		目標値	80%		
		目標値	75%		目標値	70%		
実施値				実施値			78.2%	
								75.4%

主な取組

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		A	B	B	A	B		
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	①・毎年、短期留学事業は大きな成果があり、報告会でも素晴らしい成長があるため、派遣者数を是非増やしてほしい。 ②・去年もALT活用に課題があったが、問題の洗い直しをし、早急な解決を望む。 ・次年度からスタートする小学校の英語の授業に向け、子供達の興味を引き出し楽しく学習できる雰囲気作りを期待する。							

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		A	B	B	A	A		
	総合評価 (A・B・C・D)	A						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	①・参加者の教育効果はかなり高いと思う。送り出せる人数の増員を望む。 ②・ALTを活用した日常の授業のあり方については、継続して改善努力が必要。							

具体的施策名	9. キャリア教育の充実	主管課	学校教育課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	I	より良い教育環境の形成
					個別目標	2	確かな学力を身に付けさせる教育の推進
					具体的施策	(4)	キャリア教育の充実

目的	子ども達が「自己有用感」を伴った「自己肯定感」を育み、将来、社会の中で自分の役割を果たし、自ら自分らしい生き方を実現するための力を付けさせる教育活動の展開。
----	--

主な取組	① キャリア教育の充実 取組の内容: キャリア教育を総合的(学校・家庭・地域・企業・職能団・NPO等との連携)に推進するために研修会を開催する。	平成27年度現状				現状をもたらした原因							
		キャリア教育研修会(地域連携の研究会)の実施								県の補助事業「グッジョブ連携協議会」が推進していた「地域連携の研究会」を継続させるべく、学校教育課のキャリア教育研修会の中に取り込んだ。			
		令和元年度	目標		平成30年度	目標		取組概要	成果及び反省点				
	横軸(学校・企業・行政)、縦軸(小・中・高・大)が連携して発達段階に応じた取組の構造化を図る		2回	横軸(学校・企業・行政)、縦軸(小・中・高・大)が連携して発達段階に応じた取組の構造化を図る		2回	キャリア教育研修会(地域連携の研究会)参加者 小・中・高キャリア教育担当、NPO関係者、行政、他市町村教育委員会、コーディネーター、市内企業、保護者、地域等。参加者100名		様々な立場の意見を交流することで有意義な研修となった。	2回			
	成果指標	年2回の研修会の実施		目標値			実施値						
	② 産学官連携によるキャリア教育の支援 取組の内容: 中学校職場体験、小学校ジョブシャドウイングの実施をグッジョブ連携協議会(農林水産部・商工観光局・市内企業)と連携して行った。 博物館や特定非営利活動法人NDA等と連携して地域教育資源を活用した授業を展開		平成27年度現状				現状をもたらした原因						
	キャリア教育コーディネーターを2人配置し、市内全小学校でジョブシャドウイング、中学校で職場体験のコーディネートができた。								県補助事業「地域型就業意識向上支援事業」が終了したため「グッジョブ連携協議会」の取組を学校教育課にキャリア教育コーディネーターを設置し継続、産学官の連携を強化するため				
	令和元年度	目標		平成30年度	目標		取組概要	成果及び反省点					
		産学官連携のキャリア教育の充実を図る	13校		産学官連携のキャリア教育の充実を図る	13校		・職場体験の実施(全中学校で実施・計680人) ・ジョブシャドウイングの実施(全小学校で実施・計667人) ・ジョブシャドウイング及び職場体験に係る事前学習(職業人講話、マナー等)の支援	職場体験とジョブシャドウイングを産学官連携で行うことができた。地域教育資源を活用した授業をもっと拡大させる。	13校			
	成果指標	小学校ジョブシャドウイングの実施校		目標値	8校		実施値	8校					
③		平成27年度現状				現状をもたらした原因							
令和元年度	目標		平成30年度	目標		取組概要	成果及び反省点						
	目標値			目標値			実施値						
成果指標			目標値			実施値							
④		平成27年度現状				現状をもたらした原因							
令和元年度	目標		平成30年度	目標		取組概要	成果及び反省点						
	目標値			目標値			実施値						
成果指標			目標値			実施値							

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		A	A					
	総合評価 (A・B・C・D)	A						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	①・キャリア教育の充実発展に期待する。 ②・東江小学校で開催された「お仕事フェスティバル」はとても良い。							

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	A					
	総合評価 (A・B・C・D)	A						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	①・キャリア教育に関して、先生方は多忙になってしまいが、保護者に対しての意識づけを行う講習会等を学校を通して行うと良い。 ②・全小学校でジョブシャドウイング、全中学校で職場体験を実施していることは評価できる。							

具体的施策名	10. 幼児教育の充実	主管課	保育・幼稚園課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	I	より良い教育環境の形成
					個別目標	2	確かな学力を身に付けさせる教育の推進
					具体的施策	(5)	幼児教育の充実

目的	現在の社会情勢や本市の幼稚園教育の現状と課題を踏まえ、市立幼稚園における幼児教育及び子育て支援の充実を図る。
----	--

主な取組	① 幼稚園指導主事の配置	平成27年度現状				現状をもたらした原因					
		学びの基礎力育成に向けて、アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムを作成した。それを活用した保育や教育の充実を図り、保幼小合同研修会や交流活動等に取り組んだ。				平成27年4月1日時点で、公立幼稚園への就園率が44.6%となっている。公立幼稚園以外の就学前施設から小学校へ入学する児童が増加していることから、小学校への円滑な接続及び「小1プロブレム」の解消を図るため、保幼小の積極的な連携が求められている。					
		令和元年度	目標	研修内容の充実	平成30年度	目標	研修内容の充実	取組概要		成果及び反省点	
								<研修会の実施> ・教頭・教諭研修会(年6回) ・園長・教頭・教諭研修会(年2回) ・保幼小合同研修会(年2回) <指導助言> ・園内研修(全10園) ・10年経験者研修(対象者0人) <保育参観実施園> ・講師招聘による保育参観(年2回)		・保幼小連携に係るアンケート調査を各施設に行い、成果と課題を把握することが出来た。アンケート結果を参考に課題の解決に向け取り組みたい。 ・保幼小連携に係る事前交流は定着してきたが、事後の振り返りも必要であり次年度より取り組みたい。 ・新幼稚園教育要領、特別支援教育に係る研修を重点的に行った結果、教諭の質の向上に繋がった。 ・家庭教育支援について実態を把握することから始めたい。	
								成果指標	教頭・教諭研修会の開催	6回	6回
			園長・教頭・教諭研修会の開催	3回	3回		2回				
			保幼小連携協議会の開催	2回	3回		2回				
		主な取組	② 幼児教育環境の充実	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
				「名護市立幼稚園の今後の在り方検討懇話会」の提言を踏まえ方針の策定に向けて取り組んでいる。				・名護市立幼稚園においては主に5歳児の教育・保育を行っている。 ・園児数が10人以下となっている園が6園ある(方針策定時) ・5歳児の約半数が公立幼稚園以外の就学前施設に通っている。			
				令和元年度	目標	方針に基づいた望ましい幼児教育環境の実現	平成30年度	目標	「名護市立幼稚園の今後の在り方について(方針)」の実現	取組概要	
・平成30年度より大宮幼稚園において4歳児を受け入れ2年保育を実施している。 ・平成27年度に策定した「名護市立幼稚園今後の在り方について(方針)」の実現に向け、「適正規模での教育」について関係者や地元・保護者と協議を行った。 ・1学級10人以下の園については、近隣の保育所等で受け入れてもらい集団教育の実現に取り組んだ。近隣に就学前施設がない園については、4歳児を受け入れ混合保育を実施した。 ・休園園舎又は一時的余裕教室を学童施設や子どもの家、保育施設として活用する等、有効活用に取り組んだ。【①学童施設として利用している園舎：屋我地幼稚園・真喜屋幼稚園・羽地幼稚園・名護幼稚園②子どもの家として利用している園舎：稲田幼稚園】										・複数年保育を実施し2年が経過したが、5歳児から他園へ移る子が多く複数年教育・保育の検証が困難な状況である。施行期間最終年度の31年度の4歳児クラスの申込は6人と適正規模になっていないため、引き続き複数年教育・保育の検証を行う必要がある。 ・小規模園では10人以下の状況が続いており、今後の在り方については地元・保護者・関係機関と協議を重ねる必要がある。	
成果指標	方針の策定									—	策定済
	公立幼稚園における複数年教育・保育の実施園			1園	1園		1園				
	適正規模(1学級20人～30人)での教育・保育の実施率			100%	100%		80.0%				
主な取組	③			平成27年度現状				現状をもたらした原因			
				令和元年度	目標		平成30年度	目標		取組概要	
		成果指標									

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	B					
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	①・保幼小の連携の取り組みを評価したい。アンケート調査結果からの問題解決の取り組みにも期待する。							

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	B					
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	①・市立幼稚園への就園率が低下する中、保幼小連携の更なる充実、改善が求められる。 ・家庭でやるべきことと保育園や幼稚園でできることがうまく分けられていないことが課題である。							

具体的施策名	11. 教育関係機関等との連携	主管課	学校教育課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	I	より良い教育環境の形成
					個別目標	2	確かな学力を身に付けさせる教育の推進
					具体的施策	(6)	教育関係機関等との連携

目的	児童生徒の科学に対する興味・関心を高め科学的な思考力の向上を図るため、教育関係機関等と連携し理科教育の充実に資する。
----	--

主な取組	① 北部地区における教育関係機関等との連携	平成27年度現状				現状をもたらした原因					
		取組の内容:		・「夏休み自然体験学習教室」は継続実施できているが、小中学校における関係機関と連携した出前授業等が単発的で継続・定着できていない。				・関係機関の持っているノウハウが、あまり認知されていない。 ・小中学校における、理科クラブ、科学部等(受け皿)の設置が少ない。			
		成果指標	科学関係機関等と連携した取組事業の件数	令和元年度		平成30年度		取組概要		成果及び反省点	
				目標	8件	目標	6件	・4月「カガクジカン」 ・7月「QAB夏休みこども自由研究」@沖縄コンベンションセンター ・9月 普天間第二小学校3年生PTA学年行事(ちゅら島自然学校、GODAC) ・10月「沖縄市サイエンスフェスタ」10/21 ・「なごサイエンスフェスタ2019」の実施 ・出前授業の実施 ・小中学校初任者研修 ・小中学校中堅教諭研修 ・自由研究対策	▲サイエンスフェスタ広告の遅れ ▲サイエンスフェスタの参加団体数が減った ▲開催時期の検討(親子が集まりやすい時期に)		
		実施値		実施値	9件						
		取組の内容:		平成27年度現状				現状をもたらした原因			
		成果指標		令和元年度		平成30年度		取組概要		成果及び反省点	
				目標		目標			実施値		
		取組の内容:		平成27年度現状							現状をもたらした原因
		成果指標		令和元年度		平成30年度		取組概要		成果及び反省点	
				目標		目標			実施値		
		取組の内容:		平成27年度現状							現状をもたらした原因
		成果指標		令和元年度		平成30年度		取組概要		成果及び反省点	
				目標		目標			実施値		
		取組の内容:		平成27年度現状							現状をもたらした原因
		成果指標		令和元年度		平成30年度		取組概要		成果及び反省点	
目標				目標			実施値				

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	①・開催時期の検討は前年度の反省点としているが、改善されていない。						

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	総合評価 (A・B・C・D)	A						
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	①・活動量が多く評価できる。継続した取り組みによる波及効果と、さらなる充実に期待したい。						

具体的施策名	12. 心豊かな人間性を育む教育の推進	主管課	学校教育課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	I	より良い教育環境の形成
					個別目標	3	児童生徒理解に基づく教育の推進
					具体的施策	(1)	心豊かな人間性を育む教育の推進

目的	児童生徒一人一人の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高める教育活動を推進する。
----	---

主な取組	① 情報モラル教育の充実	平成27年度現状	現状をもたらした原因			
	取組の内容: 情報化社会で情報を利用した適正な活動を行うために、もともとなる考え方や態度を養うための情報モラルに関する児童生徒・保護者向け講演会を各学校で行えるようにする。また、児童生徒の情報化社会における行動や状況を把握し、情報モラル教育に活かしていくために定期的にアンケートやヒアリングを行う。	情報モラルに関する研修を行うことで、学校間の指導の統一性を図っている。また、情報モラルについての授業研究会を行い、指導方法について研究を行った。	児童生徒が、基本的な情報モラルについて理解し、情報端末を利用したコミュニケーションの取り方などの情報教育の必要性を認識し、適切な対応を促すため			
		目標	目標	取組概要	成果及び反省点	
		令和元年度	平成30年度			
	成果指標	全学校での情報モラルの授業の実施	研修内容の充実	・情報トラブルの原因のほとんどが人為的ミスであることを研修を通して理解させ、各学校で情報セキュリティや情報モラルについての校内研修ができるように情報推進リーダーの意識や理解を高めるようにした。 ・各学校の取り組みで情報モラルについてインターネットの利用やSNSトラブルについて事例を紹介し、対応の方法について学ぶなど講演や授業を行った。 ・「名護市子どものスマートフォン、携帯電話の利用5か条」の確認	情報化推進リーダーを中心とした、学校職員の情報リテラシーの向上	
		市内全小・中学校1回以上	情報担当者向け1回		1回	
		目標値	1回		1回	
		情報モラルに関する研修会の実施				
		情報化推進リーダーによる情報モラルに関する校内研修の充実				
	② 伝統文化の尊重	平成27年度現状	現状をもたらした原因			
取組の内容: しまくとぅばの普及促進につながる活動を推進する 沖縄の踊りや音楽を授業に取り入れる。	・しまくとぅばの普及促進に関する活動の周知。 ・研修会等において、挨拶などしまくとぅばの使用を奨励。 ・三線指導については、取組なし。	・沖縄県による「しまくとぅばの日に関する条例」制定や「しまくとぅば普及推進計画」の策定により、県内各地において世代を超えて受け継がれてきた「しまくとぅば」の普及推進が高まっている。 ・中学校学習指導要領の「音楽編」において、「郷土の伝統音楽のよさを味わうことができるよう工夫すること」と明記されている。				
	目標	目標	取組概要	成果及び反省点		
	令和元年度	平成30年度				
成果指標	伝統文化に触れる機会を増やす。	取組及び整備の実施状況	・しまくとぅばの普及促進に関する取組は、各小・中学校の主体的な取組に委ねられているが、教育委員会として沖縄県の取組やイベントなど、周知に努めた。 ・三線指導については、取組なし。	・沖縄県発行『しまくとぅば読本』の活用		
	校内放送・運動会等行事におけるしまくとぅばの使用	21校	21校	21校		
	目標値					
③	平成27年度現状	現状をもたらした原因				
	目標	目標	取組概要	成果及び反省点		
	令和元年度	平成30年度				
成果指標						
④	平成27年度現状	現状をもたらした原因				
	目標	目標	取組概要	成果及び反省点		
	令和元年度	平成30年度				
成果指標						

②については、学校における取組が主となり、また、市における取組についても、経常的な取組であることから、今回、点検評価対象外とする。

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B						
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	①・情報モラル教育は徹底的に指導する必要があるため、回数の増加を望む。						

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B						
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	①・研修会でその後の教育にどの程度効果があったのか検証が必要。 ②・情報モラル教育の充実はもとより本施策項に於いては、むしろ道徳教育の充実が加わるべきである。(補足意見)						

具体的施策名	13. 人権教育や平和学習の充実	主管課	学校教育課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	I	より良い教育環境の形成
					個別目標	3	児童生徒理解に基づく教育の推進
					具体的施策	(2)	人権教育や平和学習の充実

目的	児童生徒が自他の生命を大切にし、人格を尊重し、互いに個性を認め合う豊かな人間性を育む教育活動の奨励。
----	--

主な取組	① 学校の教育活動を通じて行われる人権教育や平和学習の充実 取組の内容: 「人権の日」に合わせた人権教育の充実を奨励する。 文化課市史編係の取組や地域人材活用を図り指導が行われるよう奨励する。	平成27年度現状				現状をもたらした原因					
		各学校において月に1回人権の日を設け、校内放送や学年、学級の取り組みで人権について意識を啓発している		人権の日を設けることで、人間らしく生きることの大切さについて考え、人権意識を高めることができる。		目標		取組概要		成果及び反省点	
		令和元年度	目標	平成30年度	目標	月に1回の人権の日の実施 ・人権の日に学級の日や教育相談の日を設ける。 ・人権に関する作文を校内放送で流す。 ・学校通信などを通して周知する。	実施値	成果及び反省点			
	成果指標	人権教育の取組校	21校	人権教育の充実を図る	21校				実施値	21校	人権について取り組むことができた
		平和教育の取組校	21校	目標値	21校						

①については、学校における取組が主となっており、また、市における取組についても、経常的な取組であることから、今回、点検評価対象外とする。

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	総合評価 (A・B・C・D)							
	上記評価とした理由又は特記すべき事項							

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	総合評価 (A・B・C・D)							
	上記評価とした理由又は特記すべき事項							

具体的施策名	14. 生徒指導の充実	主管課	学校教育課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	I	より良い教育環境の形成
					個別目標	3	児童生徒理解に基づく教育の推進
					具体的施策	(3)	生徒指導の充実

目的	不登校児童生徒を出さない積極的な生徒指導と不登校児童生徒への適切な対応
----	-------------------------------------

主な取組	① 「名護市生徒指導連絡会」及び「名護市不登校児童生徒連絡会」の充実 各関係機関・団体が連携した生徒指導を充実するため、各連絡協議会を実施し、情報連携・行動連携を図り一人一人の児童生徒理解に基づく指導体制の構築に努める。	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
		情報連携、行動連携が円滑に行われるよう児童生徒理解についての連絡や教師の指導力向上に係る研修を行った。				関係機関との支援会議などの開催とその後の指導への活かし方				
		成果指標	目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
			令和元年度	不登校児童生徒数前年度比一割減		不登校児童生徒数前年度比一割減		生徒指導連絡協議会を開催し情報の共有や指導力向上を図ると共に関係機関との連携を密にして対応した。(年間5回) 生徒指導に係る協議・不登校及び児童生徒理解に関する講演会並びに協議	不登校児童生徒数が前年度より増加している。より緊密に連携し不登校児童生徒数の一割減を達成したい。	
	目標値			118人	99人	実施値	131人			
				87件	190件		96件			
		828件		859件	477件					
	いじめ認知後解消件数	684件	648件	245件						
	② 生徒指導支援者を中心とした不登校児童生徒への支援 不登校及び不登校気味で特に個別の指導や相談を必要とする児童生徒に対応するため、教職員を補佐し、継続的な支援活動や様々な体験活動等を通じた個別指導を行う生徒指導支援者を派遣し、児童生徒の自己存在感を育み、自立するための支援体制を図る。	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
		不登校及び不登校気味の児童生徒の個に応じた対応のために継続的な支援が必要				現在も情報や行動の連携を行っているが、個に応じた取り組みをより一層進める必要がある。				
		成果指標	目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
			令和元年度	不登校児童生徒数前年度比一割減		不登校児童生徒数前年度比一割減		生徒指導支援者を8校に9人配置し、学校職員と連携して、登校支援や学校での居場所づくり、また問題行動等への対応を行った。また、学校の取り組みや支援者としての在り方について委員会と情報交換を行った。	生徒指導支援者による登校支援により、不登校解消の事例もある。今後も各学校と連携し不登校児童生徒の減少に努める。	
目標値	118人			99人	実施値	131人				
③ 取組の内容:	平成27年度現状				現状をもたらした原因					
	目標		目標		取組概要		成果及び反省点			
	令和元年度									
		目標値			実施値					
④ 取組の内容:	平成27年度現状				現状をもたらした原因					
	目標		目標		取組概要		成果及び反省点			
	令和元年度									
		目標値			実施値					

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	B					
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	・不登校の増加は、社会現象であろうが、増加することは評価できない。 ①・いじめ認知後解消にもっと注力し解消後も注視が必要。							

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	B					
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	①・各関係機関と連携した積極的な取組、支援者を配置したきめ細かな支援がなされている。 ②・特別な支援が必要な生徒への対応では早い時期からの情報共有が必要になる。幼小中高での情報共有の仕組みづくりも行う必要がある。							

具体的施策名	15. 特別支援教育の充実	主管課	学校教育課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	I	より良い教育環境の形成
					個別目標	3	児童生徒理解に基づく教育の推進
					具体的施策	(4)	特別支援教育の充実

目的	多様な個性を持つ幼児児童生徒一人ひとりの学びの保障を目指し、支援体制の充実を図る。
----	---

主な取組	① 特別支援教育の充実 取組の内容:子ども一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援を行っていく。その際、共生社会の形成に向けて、障がい者の権利に基づくインクルーシブ教育(包摂:一人残らずすべての子どもをすくい上げる教育)システムの理念に基づきすすめていく。特に校内支援体制の充実をサポートし、教師の特別支援における資質向上をめざす。	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
		発達障がいやその傾向のある児童生徒の二次障がいの増加がみられる				個々の支援ニーズの把握が不十分であり、支援体制において学校間で差が生じている。			
		令和元年度	目標		目標		取組概要		成果及び反省点
	インクルーシブ教育の充実をめざし、全学校の支援体制を整え、全教職員の特別支援の理解と技術の向上を図る		インクルーシブ教育の充実をめざし、校内体制とコーディネーターの資質向上を行う		・年4回の特別支援関連研修会を実施 ・各学校の特別支援コーディネーターとの連絡会を9回(3校区×3回)実施し、全校の体制や課題及び校種間連携の状況について把握し、必要に応じて学校支援を行った。 ・該当児童生徒や保護者及び学級担任との面談を要請に応じて行った。		インクルーシブ教育について理解が深まった。		
	目標値		100%	目標値	100%	実施値	100%		
	研修会2回	90%	研修会2回	90%	2回				
	成果指標	コーディネーターの配置・指導計画作成・支援会議						100%	
		特別支援教育関連研修会						2回	
		研修会事後アンケートにて役に立ったとした回答率						100%	
	② 特別支援教育支援者の配置及び充実 取組の内容:特別支援に該当する発達障がいやその傾向のある児童生徒の支援を行う支援者を配置し、主に安全管理、介助、学習のサポート、教職員と連携し、児童生徒の適応と自立を目指す。また、支援者の資質向上を目的とし、連絡会(6回)・研修会(6回)を行う。	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
人員確保が困難であり、支援者の資質に差が見られる				応募者と条件(待遇)が一致せず、採用に至らないケースが多々ある。また年度途中の採用となり、研修受講回数に差があり、結果的に支援者の資質の差につながっていると思われる					
令和元年度		目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
		・各学校の要支援児童生徒の実態を把握し、適切な配置及びスキルアップを目指す。 ・研修会等実施後のアンケート結果「役に立った」90%をめざす。		各学校の要支援児童生徒の実態を把握し、適切な配置を目指す。 ・ニーズに応じた理論とスキルの獲得を目指した研修と子ども理解が深まる連絡会を実施する。		・17校に37名配置した。 ・年間を通して、学校と連携し、要支援児童生徒の実態を把握。さらに支援者申請書(学校より2月提出)を参考に、各学校の支援者配置数を課内会議にて決定する。ハローワークやホームページにて支援者を公募し、応募者の面接、決定、配置を行う。 ・連絡会6回を実施し、グループ協議を中心に児童生徒の支援ニーズと対応策について意見交換を重ねた。その結果、支援ニーズの理解と効果的な対応策が見いだされ、対象の児童生徒の改善につながったケースが多々あった。 ・毎回アンケートを実施し、支援者の要望に応える形で、研修会を実施することにより、児童生徒の支援ニーズに応える研修会が実施できたと思われる。その結果、児童生徒に改善がみられたと報告があった。(例:「暴力的な子どもが増加し、教室内でのケンカが多い」→研修・暴力に走る子どもの心理と対応→感想「対応策がわかり、実践した結果、児童が落ち着いた」)		・学校からの要請が多く、支援者の増員が必要と思われる。 ・支援方法の協議や研修を重ねることにより、支援者のスキルアップが見られ、対象児童生徒の改善につながった。	
		目標値	100%	目標値	100%	実施値	100%		
連絡会4回		90%	連絡会4回	90%	協議会4回				
成果指標		必要と判断した支援者配置数に対する配置率						100%	
		連絡会年6回						協議会4回	
		アンケートで役に立ったとした回答率						100%	
③ 名護市教育支援委員会の充実 取組の内容:各学校と連携した教育相談及び面談等の充実に努める。学校及び保護者の要請に応じ、適切な判定を出せるよう努める。		平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	・教育支援申請(208件)に対する対応率100% ・特別支援教育コーディネーター等研修会実施(年2回)				教育支援委員のきめ細やかな対応により、申請件数に対し100%対応できた。市立幼・小・中の担当者のみならず、H27年度より保育園等の担当者へも研修を行うことができた。				
	令和元年度	目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
		・教育相談等の充実に図り、学校・保護者の要請に応じた、適切な判定を目指す。		・教育相談等の充実に図り、学校・保護者の要請に応じた、適切な判定を目指す。		【名護市教育支援委員会条例 第2条(任務)】 委員会は、教育委員会の諮問に応じて、就学予定児等の障がいの種別、程度等を総合的に判断し、教育支援及びこれに係る必要な事項について調査又は審議を行い、及び答申する。 H30年度 教育支援申請件数:287件 ・綿密且丁寧な教育相談・訪問診断等を行い、学校及び保護者の要請に応えるように努める。 ・学校、保護者及び教育支援委員会、三者の共通理解の充実に図り、より適切な判断を目指す。 ・年2回、特別支援教育コーディネーター等へ向けた研修会を行い、教育支援に対する知識・理解及び職能向上を図る。		・教育支援申請に100%対応できた。 ・通級指導教室の新規設置を望む声は多く、今後も引き続き沖縄県へ通級指導教室新規設置について要請を行う。	
		目標値	100%	目標値	100%	実施値	100%		
	2回	2回	2回	2回	2回				
	成果指標	教育支援申請に対する対応率						100%	
		研修会の実施回数						2回	

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		A	B	A				
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	・各取組で目標値を達成しており、成果は評価できる。この先も支援者の資質向上のため、継続して支援できる環境作りに努めてほしい。 ②・学校からの要請の多い支援員の増員を望む。						

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		A	A	A				
	総合評価 (A・B・C・D)	A						
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	①・特別支援教育については、高いレベルでニーズへの対応がなされている。 ②・支援者の増員及びスキルアップや、進級指導教室の充実について、継続的に努力が必要。						

具体的施策名	16. 文化財の保全及び普及活用	主管課	文化課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針 個別目標 具体的施策	Ⅱ 生涯学習社会の実現 1 文化の保全・活用 (1) 文化財の保全及び普及活用
--------	------------------	-----	-----	----------------------	-----------------------	---

目的 市内には国・県・市指定の文化財が85件ある。文化財の保全をするとともに、これを公開し積極的に取り組んでおり、市民が地域の伝統や文化に触れ、学ぶ機会を提供し、地域作りに結びつくことを目的としている。また、開発行為の及び恐れのある遺跡の範囲と性格を把握するために調査を実施し、開発調整に資することを目的とする。併せて、発掘調査により出土した遺物の整理や教育普及活動への考古資料の活用にも取り組む。

① 天然記念物「名護のひんぶんガジュマル」の保全	平成27年度現状				現状をもたらした原因											
	ひんぶんガジュマルの生育状況は良好であるが、長期的な育成環境の整備が望まれる。				ひんぶんガジュマルの生育環境は維持管理処置により樹勢は良好である。長期的な環境整備は意見の集約及び具体的根拠の整理に時間を要している。											
取組の内容	目標		目標		取組概要		成果及び反省点									
天然記念物「名護のひんぶんガジュマル」の保全に向けた維持管理の実施及び生育環境の整備	ひんぶんガジュマルの保全		樹勢診断やフレーム点検等の維持管理処置		・樹木医による樹勢診断(0回) ・フレームの点検(1回) ・根鉢管理(1回)		現在、樹勢が良好なことから維持管理においては効果が表れている。									
成果指標	樹木医による樹勢診断	年1回	目標値	年1回	実施値	年0回	年1回	年1回								
	フレームの点検	年1回		年1回												
	枝の剪定等	年1回		年1回												
② 重要文化財「津嘉山酒造所施設」保存修理事業の推進	平成27年度現状				現状をもたらした原因											
重要文化財「津嘉山酒造所施設」の保存修理	廻屋の解体工事及び保存修理が終了した。主屋の解体工事が終了。保存修理工事に切りかかる。				経年劣化や長年、風雨にさらされてきたことによる。事業の進捗については概ね良好である。											
※平成29年度にて完了	目標		目標		取組概要		成果及び反省点									
津嘉山酒造所施設の保存修理	津嘉山酒造所施設の保存修理		主屋の保存修理		・津嘉山酒造所施設保存修理事業完了記念式典・祝賀会の開催(6月30日) ・一括交付金を活用する「あわもりと名護まち魅力発信拠点施設整備事業」の検討(名護市所有430㎡内における便益施設、物販施設、防災設備、駐車場等の整備事業)		計画どおり実施できた。									
成果指標	目標値	100%	目標値	100%	実施値	100%										
③ 天然記念物「名護市嘉陽層の褶曲」の保全	平成27年度現状				現状をもたらした原因											
天然記念物「名護市嘉陽層の褶曲」の保全に向けた計画の策定	文化財めぐりや授業、グリーンツーリズムによる利用者が訪れている。保全や利用者の安全のため、管理計画が必要である。				以前より、授業に利用されていたが国指定文化財になったことにより、周知され、さらに多くの方が訪れるようになった。											
※平成29年度にて完了	目標		目標		取組概要		成果及び反省点									
「名護市嘉陽層の褶曲」保存活用計画策定	「名護市嘉陽層の褶曲」保存活用計画策定		事業実施に向けた現地調査		平成29年度末にて「名護市嘉陽層の褶曲」保存活用計画を策定済み。		計画どおり実施できた。									
成果指標	目標値	完成	目標値	完成	実施値	完成										
④ 埋蔵文化財の保全	平成27年度現状				現状をもたらした原因											
開発に伴う調整やキャンプ・シュワブの確認調査等が多忙のため、名護グシクなどの重要遺跡の調査が進んでいない。	緊急な開発に伴う調整や複数の発掘調査を同時に行っているため。															
埋蔵文化財の保護	埋蔵文化財の保護		埋蔵文化財の保護		・開発に伴う文化財の有無等の調整(556件) ・埋蔵文化財の確認調査(48件 内訳 ①確認・立会調査 42件、②試掘調査 6件) (キャンプ・シュワブ、許田貝塚内個人住宅、我部塩田施設予定地、屋部中学校、東江幼稚園など)		重要な遺跡を調査できる体制づくりが必要である。									
成果指標	目標値		目標値		実施値											
⑤ 豊年祭の支援	平成27年度現状				現状をもたらした原因											
市内の一部の字で実施される豊年祭の調査及び記録する。	対象とした地域の豊年祭の調査・記録を実施した。				多くの箇所の調査を実施したいが、開催期日の重複などで調査箇所が限定される。											
豊年祭の調査及び記録	豊年祭の継続的な記録及び調査		豊年祭の記録及び調査		・喜瀬、数久田、大兼久の豊年祭調査及び記録 ・これまで調査及び記録した区(43区)		喜瀬と大兼久については、外部委託を実施。									
成果指標	目標値	年3箇所	目標値	年3箇所	実施値	3箇所										
⑥ 「55区すべてに指定文化財を！」を目標に、市内文化財の周知及び普及・活用の促進	平成27年度現状				現状をもたらした原因											
市内55区のすべてに指定文化財を有することができるように、調査を実施し、利害関係の諸手続が整い次第、指定へと結びつける。	名護小学校の「のぞみの像」の指定に向けて、調査や利害関係の調整を行ったが、指定までには至っていない。				調査に時間を要したことによる。											
文化財の指定	文化財の指定		文化財の指定		・文化財指定に関する調査(名護グシク、津嘉山酒造所施設の琉球庭園、汀間の石敢當、宿道(大浦、瀬嵩、二見)大浦湾チリビンのアオサゴ群集、幸地又のハル石「ぬ」、許田のヤエヤマナムノキ群落、部間権現、護佐喜宮) ※指定文化財がある区:55区中30区(55%)		文化財指定に向け調査を実施し、文化財保存調査委員会で継続審議中。利害関係の調整及び調査に時間を要している。									
文化財指定候補の調査	目標値	年1件	目標値	年1件	実施値	1件										
指定文化財がある区	目標値	32区	目標値	30区	実施値	9件		30区								
⑦ 考古資料を活用した出前事業の実施	平成27年度現状				現状をもたらした原因											
調査で出土された遺物を活用し、埋蔵文化財及び地域の歴史について普及・啓蒙を図る。	計画した事業については、実施することができたが、学校や地域からの文化財めぐり等について、さらなる普及・啓蒙が必要である。				学校・地域へ考古資料の活用について、予定していたが悪天候のため見合わせた事例があった。											
考古資料を活用した地域づくり及び学習機会の提供	考古資料を活用した地域づくり及び学習機会の提供		考古資料を活用した地域づくり及び学習機会の提供		・碇石の資料展示 ・文化財講演会の実施(40人) ・学校関係者の普及・啓蒙活動(名護商工、屋部中、屋我地ひるぎ学園) ・埋蔵文化財巡回展の実施(名護中央図書館、屋我地支所、羽地支所)延べ350人		学校の授業や教育活動等にてより活用されるよう普及・啓蒙を図る必要がある。									
考古資料を活用した文化財めぐり講演会の実施	目標値	年1回	目標値	年1回	実施値	年1回										
児童生徒や学校関係者への普及・啓蒙	目標値	年1回	目標値	年1回	実施値	年1回		年8回								
内部評価	それぞれの主な取組に対する評価	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	それぞれの主な取組に対する評価	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か	A			A	A	B	B		A			B	A	B	A
取組によって得られた成果及び反省点に対する評価	(A・B・C・D)							(A・B・C・D)								
総合評価	A							A								
上記評価とした理由又は特記すべき事項	・事業計画の実施と、市民の積極的な活用に期待する。							・他事業との兼ね合いもあり進捗が遅く感じられるのは残念だが、これからも息の長い活動を行い、かつ本事業の広報活動にも力を入れてほしい。 ・限られた人員で多様な活動がなされ、目標を十分達成できたと評価する。 ⑥・文化財調査にかかる体制の充実が望まれる。								
外部評価	それぞれの主な取組に対する評価															
	平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か															
取組によって得られた成果及び反省点に対する評価																
総合評価																
上記評価とした理由又は特記すべき事項																

具体的施策名	17. 博物館活動の充実	主管課	博物館	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	Ⅱ 生涯学習社会の実現
					個別目標	1 文化の保全・活用
					具体的施策	(2) 博物館活動の充実

目的	「名護・山原の生活と自然」をテーマに、資料収集・保存、調査研究、教育普及活動を展開し、市民の学習・研究活動を支援し、文化活動の発展に資する。
----	--

① ぶりで子ども博物館の充実	平成27年度現状				現状をもたらした原因					
	開始して29回目を迎え、自然観察や、昔ながらの道具を使った体験学習を実施。地域の魅力に気づき、新しい発見のきっかけとなるような講座を目指している。				現代の青少年は、自然体験や生活体験が不足していると言われており、様々な体験活動を経験させることにより、生きる力を育み、人材育成につながる。					
	目標		目標		取組概要		成果及び反省点			
令和元年度	講座内容の充実を図る		平成30年度		計画通り講座を実施する。		小学5年生を対象とし、味噌作り(2回)・漁網づくり・草木おもちゃ作り・豆腐作りの講座を実施した(4講座、計5回)。草木おもちゃづくりについては、当初は川歩きを計画していたが、天候不良のため、草木おもちゃづくりと川の話に変更した。参加者数は17人。(男子10人:女子7人)		天候不良で自然観察ができなかったことは残念である。また参加者も少なかった。	
	成果指標	地域で体験できる講座数	10回	目標値	5回		実施値	5回		
② 企画展、特別展の開催や市民ニーズにあった講演会の実施		平成27年度現状				現状をもたらした原因				
取組の内容: 名護・やんばるの地域の特徴や課題等を調査・研究し、企画展や特別展を開催する。展示会に合わせ図録を発刊し、広く市民に公開することで、地域をより深く理解する機会を創出。また、講演会等、市民ニーズに沿って開催する。		関係各課や団体と共催しながら、効率的に企画展・特別展を実施し、展示期間中に関連する講演会等を開催した。また、サイエンスフェスタ等のイベントでブース展示を行い、博物館をアピールすることができた。				ALLやんばる学びのまちプロジェクトに参加しており、サイエンスフェスタ等の情報を得ることができた。				
目標		目標		取組概要		成果及び反省点				
令和元年度	企画展・特別展・講演会回数		平成30年度		計画通り展示会を実施する。		H30年度は、はしか流行や台風等のため中止となるイベントが多かったが、目標値どおり実施することができた。			
	成果指標	展示内容の充実を図る	10回	目標値	15回	<ul style="list-style-type: none"> <企画展> ・名護・やんばるの戦争展(6/15~7/15、1,488人) ・平良孝七写真展-戦後・沖縄の顔(11/15~12/2、536人) ・「風土建築家・清村勉」を知っている?~沖縄コンクリート建築の父が遺したもの~(1/25~2/24、1,251人) <特別展> ・儀間比呂志のやんばる(10/4~10/14、527人) ・名護博物館35周年特別展示(3/1~3/31、764人) <講演会・体験講座> ・野鳥観察会 身近な野鳥を探しに行こう!(5/20、11人) ・戦争展関連企画 映画『スパイ戦史』上映(6/23、80人) ・夏休み子ども昆虫標本づくり講座(8/19、35人) ・アカハラダカ観察会(9/23・24、50人) ・儀間比呂志の作品読み聞かせ会(10/13、50人) ・やんばる学研究会(11/23、45人) ・しめ縄づくり講座(12/22、10人) ・「現存する清村建築とやんばるのコンクリート遺構群」見学ツアー(2/9、29人) ・知られざる風土建築家「清村勉」を語る~その人物像と業績~(2/9、37人) <イベント等> ・夏休み子ども自由研究in沖縄コンベンションセンター(8/4・5、1,402人) ・なごサイエンスフェスタ2019(1/26、273人) ・中央図書館サイエンスカフェ(4/21)→中止(はしか流行のため) ・羽地ダム鯉のぼりまつり 羽地大川生き物探検(5/4・5)→中止(はしか流行のため) ・第6回名護市環境フェア(10/7)→中止(悪天候のため) 	実施値		16回	
③ 学校学習支援活動の充実		平成27年度現状				現状をもたらした原因				
取組の内容: 出前講座や博物館を使った授業など、学校の学習を支援する。		小学3年生の社会科の時間(昔の道具)ですべての小学校が博物館の見学をしている。学校で実施する出前授業(総合・理科)の需要が増えている。				教職員10年目研修等で博物館の学校教育での活用について意見交換しており、積極的に博物館を活用する学校が増えている。				
目標		目標		取組概要		成果及び反省点				
令和元年度	学校の要望に応えるだけでなく、学校と連携し、積極的に取り組む。		平成30年度		市内小中学校からの出前講座等の要望に対して、できるだけ応えられるようにする。		市内小中学校からの出前講座等の要望について、すべて応えることができた。また、高校生のインターンシップについては、新館建設に向けた準備のため、後期の受け入れは行なわなかった。			
	成果指標	館内見学及び出前講座の回数	40回	目標値	40回	<ul style="list-style-type: none"> <館内見学> 保育園・学童・幼稚園15回(398人)・小学校21回(840人)・高校2校(14人) 学芸員が1校あたり60分、館内の説明を行った。 <出前講座> 小学校15回 <インターンシップ等受け入れ> 辺土名高校2年・3人、北山高校1年・3人、北山高校教諭(教職10年目研修)、学芸員実習(3大学)・3人 	実施値		57回	

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	総合評価 (A・B・C・D)	B	B	B						A	B	A	A				
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	・天候、はしかの流行での中止や参加者の減少は不測の事態で理解できる。								上記評価とした理由又は特記すべき事項	①・「ぶりで子ども博物館」講座への参加者の拡大が望まれる。 ②③・博物館の企画には参加者が多いものも多数あるため、新館開館までの間、出前講義開設により小中学校への参加校の拡大を図るなど、工夫や調整が必要。						

主な取組

具体的施策名	18. 市民の市史づくり	主管課	文化課	第2次名護市教育振興基	教育方針	Ⅱ	生涯学習社会の実現
				本計画での位置づけ	個別目標	1	文化の保全・活用
					具体的施策	(3)	市民の市史づくり

目的	名護市の歴史を文化を調査によって明らかにし、書物として刊行する。そしてその成果を市民へ還元する。
----	--

主な取組	① 市史の刊行	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
	取組の内容:	本編・3「名護・やんばるの沖縄戦」の刊行が遅れ、平成28年度明許繰越となった。				原稿の校正作業に不測の時間を要している。				
	成果指標	既刊行数(全19巻)	目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
			「名護市史刊行計画」に沿って 計画的に市史を刊行する	平成30年度	本編・3「名護・やんばるの沖縄戦」(資料編3)の刊行及び 名護市叢書3「山原」の再版。	本編・1「自然と人」Ⅱ調査。 本編・2「通史・史資料叢書」調査 本編・3「名護・やんばるの沖縄戦」(資料編3)の刊行。 本編・4「戦後生活史」調査。 別巻・写真集「市制50周年記念写真集」写真収集及び調査。 叢書・3「山原」(宮城真治資料1)の再版。		本編・3「名護・やんばるの沖縄戦」(資料編3)の刊行及び叢書・3「山原」の再版。その他については、引き続き調査を継続。		
	実施値	16巻	15巻	14巻						
	② 教育普及活動の推進	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
	取組の内容:	戦跡めぐりについては参加者も多く、適切に行なっている。市史セミナーについては、27年度は開催できなかった。				市史セミナーは、本編・3「名護・やんばるの沖縄戦」刊行後に、それに関連したテーマで実施する予定であったが、本の刊行が遅れたため、開催できなかった。				
	成果指標	戦跡めぐりFWへの参加者数(高校生)	目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
			平和学習や様々なテーマでセミナーを開催し、市民が地域に対する理解を深める機会を提供する。	平成30年度	平和学習や様々なテーマでセミナーを開催し、市民が地域に対する理解を深める機会を提供する。	第24回「高校生とともに考えるやんばるの沖縄戦」FWの開催。 平成30年度市史セミナー「名護・やんばるのフクギ林」の開催。 紙芝居20作目「ショーの国のゴータロー」山本川恒翁の語りより製作。		沖縄戦FWは、高校生と教諭で86人参加。小中学生の平和学習については、学校からの依頼に応じて、FWや講演を随時実施。市史セミナー「名護・やんばるのフクギ林」は34人参加。		
	実施値	50人	100人	50人	50人	20作		86人		
	市史セミナーへの参加者数							34人		
	紙芝居の製作総数					21作		20作		
	③	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
	成果指標	目標	平成30年度	目標	取組概要		成果及び反省点		実施値	
	④	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
	取組の内容:	目標				取組概要				成果及び反省点
成果指標	目標	平成30年度	目標	取組概要		成果及び反省点		実施値		

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	B					
	総合評価	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	①・市史づくりに多くの調査結果の活用で刊行に期待する。 ②・高校生の参加など、とても良く取り組まれているが、市史セミナーへの参加者数がさらに増えると良い。							

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	B					
	総合評価	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	①②・長期に渡る活動で、一気に進捗するのは難しいと思うが、着実に進めてほしい。 ②・「平和学習」への小中学校の参加校(者)の拡大が望まれる。							

具体的施策名	19. 新博物館の建設	主管課	博物館	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針 個別目標 具体的施策	Ⅱ 1 (4)	生涯学習社会の実現 文化の保全・活用 新博物館の建設
--------	-------------	-----	-----	----------------------	-----------------------	---------------	----------------------------------

目的	名護・やんばる地域の文化を育む中核施設として、また、築50年以上経過し老朽化した建物を、現在のニーズに沿った施設として、新博物館の建設を目指す。
----	--

主な取組	① 新博物館建設に向けた取組 取組の内容: 新博物館の建設用地を確保するとともに、補助メニューの情報を収集・確認し、申請していく。	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
		用地交渉が白紙に戻り、新たな候補地を選定している。		県有地である「森林資源研究センター跡地」と市有地の等価交換ができないという回答が県からあり、再度、選定作業から始めることになった。		取組概要		成果及び反省点		
		令和元年度	目標 建設用地を取得し、実施設計業務及び造成工事を完了する。		平成30年度	目標 基本設計業務を完了させ、事業区域(用地取得範囲)を確定する。		沖縄振興特別推進交付金(一括交付金)事業の予算を活用し、新博物館の基本設計や造成工事を発注する為の工事図面を作成した。また、用地の取得については、基本設計業務及び用地測量業務の成果に基づき、沖縄県の現場立会いのもと、事業用地の取得範囲を確定させた。平成31年度は、県議会・市議会の議決を得た後に、用地を購入する予定である。	建築の基本設計及び造成設計を作成することができた。用地については、用地取得範囲を確定し、沖縄県の合意を得ることができた。	
			成果指標	基本設計業務の完了 用地の確保		目標値	完了 範囲の確定		目標値	— 用地の選定
	② 新博物館展示のための資料収集・整理・保管 取組の内容: これまで収集してきた資料を整理・確認しながら、新博物館の展示に向けた資料を収集・整理・保管し、市民に展示していきたい。	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
		貴重な資料を含め、約3万点あまりの資料について、十分に整理できていない。		博物館を運営しながら資料の整理・保管を進めるのは、現状の人員では足りない。		取組概要		成果及び反省点		
		令和元年度	目標 資料を収集・整理・保管するとともに、利活用を促進する。		平成30年度	目標 貴重な民俗資料や自然史資料等を収集・整理・保管する。		収集、寄贈、購入等により、民俗資料83点、自然史資料100点、美術資料17点、計200点を収集及び登録した。資料整理を進める中で、過去に収集し未登録となっていた資料の整理、登録も行った。主なものとして、戦前使用していた高膳(タカウジン)等、沖縄県立第三中学校の卒業証書や琉球政府時代の辞令書等、リュウキュウイノシシ等の剥製の作製、やんばる在住の芸術家の作品(購入及び寄贈)などがある。	目標値通り資料の収集ができた。また、少しずつではあるが資料の整理、確認、未登録資料の登録作業を進めることができた	
			成果指標	収集資料数		目標値	30,700点		目標値	30,600点
	③	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
		目標		目標		取組概要		成果及び反省点		
		令和元年度	目標値		目標値				実施値	
	成果指標									
	④	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
		目標		目標		取組概要		成果及び反省点		
		令和元年度	目標値		目標値				実施値	
成果指標										

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		A	A					
	総合評価 (A・B・C・D)	A						
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	①・新博物館の建設用地が確定し、早急な完成に大きな期待をする。 ②・資料収集の目標値の達成について評価する。						

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	B					
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	①・いまひとつ新館建設の進捗が見えてこない。積極的な広報活動を行ってほしい。						

具体的施策名	20. 市民に開かれた利用しやすい図書館運営	主管課	中央図書館	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針 個別目標 具体的施策	Ⅱ 2 (1)	生涯学習社会の実現 図書館サービスの充実 市民に開かれた利用しやすい図書館運営
--------	------------------------	-----	-------	----------------------	-----------------------	---------------	---

目的	「図書館は市民の本棚、暮らしの中に図書館を！」市民の要望や社会情勢に目を向け、豊富で多種多様な資料・情報の提供を行い、学校教育を援助し家庭教育の向上に向けて市内全域へのサービスの充実と読書環境の整備を図る中で、市民が利用しやすい多様な学習機会の提供と支援に努める。
----	--

① リクエスト、レファレンスサービスの充実・実施	平成27年度現状				現状をもたらした原因					
	リクエストは利用が多いが、レファレンスについてはまだ少ない。				リクエストは行政でも少しずつはあるが認知されてきた。レファレンスについては広報不足が考えられる。					
取組の内容: 利用者からの予約・リクエストに可能な限り応え、レファレンスサービスにも迅速に対応できるよう幅広い蔵書構成を心がける。またインターネットを活用したサービスの充実にも取り組む。	目標		目標		取組概要		成果及び反省点			
	令和元年度	平成30年度	令和元年度	平成30年度	①予約・リクエストサービス件数… 3,493件(予約2,521件、リクエスト972件) ②レファレンスサービス件数 … 2,305件		予約・リクエストは前年度より595件増。レファレンスは273件増。			
成果指標	予約・リクエストサービスの受付件数	4,100件	レファレンスサービスの受付件数	2,500件	目標値	4,100件	目標値	2,500件	実施値	3,493件 2,305件
② 学校図書館司書との連携	平成27年度現状				現状をもたらした原因					
	学校司書研修会の際に中央図書館職員も参加し情報交換等を行っている。また学校図書館を通して、学校で必要な資料を選定・貸出を行っている。				情報交換を行い、資料の要請方法について様式や手順を決めてお互いに確認したことで資料提供がスムーズに行えるようになったと考えられる。特別おはなし会は学校司書も参加することを含め、各学校・保育園等へも広く広報した。					
取組の内容: 市内小中学校図書館司書と中央図書館司書との連絡会をもち、学習支援や読書活動の充実に向けて協力していく。また共同で推薦図書リストを作成し、読み聞かせやレファレンスに対応できるよう図書資料を充実させる。	目標		目標		取組概要		成果及び反省点			
	令和元年度	平成30年度	令和元年度	平成30年度	学校から研究授業等で使用する図書資料の貸出要請があった際の、資料の選定と提供… 45件(ファックス・メール20件 窓口9件 がじまる号16件)。 ※学校が希望するテーマの資料を30～100冊程度選定して提供。推薦図書リスト作成において、未就学児部門と郷土部門を担当。29年度の各小中学校学年毎の貸出上位10冊を児童コーナーで紹介。		資料提供は前年度より34件増。各小中学校の貸出上位本の紹介は好評だった。			
成果指標	学校からの資料貸出要請の件数	38件	推薦図書リスト作成件数	1件	目標値	38件	目標値	1件	実施値	45件 1件
③ ボランティアによるおはなし会の継続	平成27年度現状				現状をもたらした原因					
	乳幼児と保護者向けのびよびよおはなし会は好評。土曜日のおはなし会の参加者が少ない。				びよびよおはなし会の後にボランティアや保護者同士での交流が生まれている。児童向けのおはなし会は学校でも日常的に行われているので、内容を考える必要がある。またボランティアの数も減少し、維持が厳しい。					
取組の内容: 毎週土曜日のおはなし会、月2回の赤ちゃんから幼児向けのおはなし会、春・クリスマスの特別おはなし会の開催	目標		目標		取組概要		成果及び反省点			
	令和元年度	平成30年度	令和元年度	平成30年度	①毎週土曜日のおはなし会…38回 604人 ②あかちゃんおはなし会(月1回)… 8回 98人 ③特別おはなし会…5回 311人 ※開館20周年プレイベントのおはなし会含む ④英語のおはなし会(月1～2)…16回 184人 計 67回 /1,197人		麻疹流行を受け、4月末から5月末までのおはなし会を休止としたため、回数減となった。			
成果指標	おはなし会開催数	85回	目標値	85回	実施値	67回				
④ 市民の要望に考慮した講演会	平成27年度現状				現状をもたらした原因					
	子ども司書体験講座・おりがみ講座など子ども向けの企画、ハワイアン・フラ講座等の大人向けの企画の開催				アンケートや利用者からの声を参考にし、地域の人材を活用して講座を開催した					
取組の内容: 一般・児童・郷土チームそれぞれで企画しての講演会・ワークショップ等の開催	目標		目標		取組概要		成果及び反省点			
	令和元年度	平成30年度	令和元年度	平成30年度	①アメリカ情報コーナー企画(ハワイアンフラ・英会話・多読教室・アメリカの小学校の1日・クッキング)723人 ②音読講座4回15人 ③子ども司書体験講座4人 ④中高校生司書体験講座1人 合計 8講座61回・参加者総数743人 開館20周年プレイベント及び記念事業 ①新春カルタ大会参加25人応援22人 ②人形劇団かじまやあ公演127人		講座数は増加したが、開催回数は麻疹流行のため減。20周年記念事業はいずれも好評だった。			
成果指標	講演会・ワークショップ等開催数	15講座	講演会・ワークショップ等参加者数	1,200人	目標値	15講座	目標値	1,200人	実施値	10講座(63回) 917人
⑤ 企画展等の実施	平成27年度現状				現状をもたらした原因					
	戦後70年に関する新聞記事や資料の展示(郷土)、沖縄タイムス出版文化賞受賞絵本『ノグチゲラの親子』写真展、アメリカ情報コーナーポスター展(4回)、給食展(給食係)を開催した。				1年間戦後70年に関する新聞記事のスクラップを郷土資料チームが続け、展示することができた。また講演会と併せての写真展や、昨年も好評だった給食展を給食係と連携して開催することができた。					
取組の内容: 絵本原画展、給食係など他の部署との共催による企画展、アメリカ情報コーナー関連のポスター展	目標		目標		取組概要		成果及び反省点			
	令和元年度	平成30年度	令和元年度	平成30年度	①しろませいゆう絵本原画展(展示ホール)※開館20周年プレイベント ②図書館のあゆみ展(展示ホール)※開館20周年記念事業 ③アメリカ情報コーナーポスター展(5回) ④国立がん情報センター「がん情報ギフト」展示(開架室)		しろませいゆう絵本原画展は好評だった。「がん情報ギフト」も、配布用資料が多数あり好評だった。			
成果指標	展示会開催数	8回	目標値	8回	実施値	8回				

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	総合評価 (A・B・C・D)	A	A	B	B	A		
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	・多様な企画や取り組み、改善がなされ、多くの市民が利用しやすい図書館に期待する。						

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	総合評価 (A・B・C・D)	B	A	B	B	B		
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	・全体的に、図書館中心で行うイベントの情報をわかりやすく見やすく発信してほしい。 ④⑤・講演会、企画展等の周知等について、一層の工夫が望まれる。						

具体的施策名	21. 全市民へ公平なサービスの提供	主管課	中央図書館	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	Ⅱ 生涯学習社会の実現
					個別目標	2 図書館サービスの充実
					具体的施策	(2) 全市民へ公平なサービスの提供

目的	①広域住民への公平なサービスの提供 ②家庭・地域・教育関連機関の協力・連携を図りつつ、子ども達が自主的に読書活動が行えるよう資料及び読書環境の整備
----	---

主な取組	① 移動図書館、羽地地区センター図書室の充実 取組の内容： 月1回・28箇所の巡回ステーションでの貸出業務、本庁・学校・企業等へのセット貸出(配本)、羽地地区センター図書室での講座・ワークショップの開催	平成27年度現状				現状をもたらした原因						
		月1回の移動図書館の巡回サービス、羽地地区センター図書室で大人向け・子ども向けそれぞれを対象とした講座を開催している				利用頻度や地域の要望から巡回ステーション・巡回スケジュールの見直しを行っている。地域の人材を活用した講座・ワークショップを企画						
		成果指標	目標		令和元年度	目標		平成30年度	取組概要		成果及び反省点	
			広域住民への貸出サービスとニーズに合った講座の開催			広域住民への貸出サービスと、ニーズに合った講座の開催			①市内28か所のステーションに月1回の巡回サービスを行った。また、夏休み期間中に公民館等への特別巡回を6か所で行った。 ②職場体験学習のプログラムとして、がじまる号乗車実習を実施した。 ③羽地地区センター図書室で、人形劇団かじまやあ公演を開催した。(参加者71人)		羽地図書室での人形劇公演は、近くの高齢者施設からも来場があり、好評だった。今後の図書室利用につなげる努力をしたい。	
	移動図書館年間貸出冊数		55,000冊	目標値		55,000冊	実施値					
	羽地地区センター図書室貸出冊数	15,000冊	目標値	15,000冊	5,684冊							
	羽地地区センター図書室講座開催数	6回		6回			1回					
	② 地域公民館、企業等へのセット貸出の推進 取組の内容： 公民館、企業、本庁内の希望部署に、毎月1回セット本の配本を行っている。※図書館であらかじめ1セット50冊の図書のセットを組み、各団体に届けている。巡回ステーションでもセット本の貸出を行っている。	平成27年度現状				現状をもたらした原因						
		毎月、要望のあるステーションに50冊1セットの本の配本を行っている				現在は本庁内での利用が多い。移動図書館業務と平行して行っているため、今後要望するところが増えた場合の対応について検討する必要がある。						
		成果指標	目標		令和元年度	目標		平成30年度	取組概要		成果及び反省点	
			図書館利用が難しい企業・団体への配本サービスの充実			本庁・企業・団体への配本サービス			①公民館、企業等7か所のステーションへの配本(月1回) ②移動図書館の巡回ステーションでのセット本の貸出(数値には含めていない)		名護市役所にステーションを設置したことにより配本に余裕が出たため、市広報等で新規募集をしたが応募がなかった。	
	セット貸出ステーション数		10か所	目標値		10か所	実施値					
③	平成27年度現状				現状をもたらした原因							
	成果指標	目標		令和元年度	目標		平成30年度	取組概要		成果及び反省点		
目標値			目標値			実施値						
④	平成27年度現状				現状をもたらした原因							
	成果指標	目標		令和元年度	目標		平成30年度	取組概要		成果及び反省点		
目標値			目標値			実施値						

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	B					
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	・市民が公平なサービス提供を受けられる工夫、努力を評価する。							

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	B					
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	・設定されている目標に照らして評価している。 ①・羽地地区センター図書室の運営について、総合的な工夫、改善が必要。 ・講演会は参加者も多く評判もよいと聞いているので定例化してほしい。							

具体的施策名	22. 市民会館事業の充実	主管課	文化スポーツ振興課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	Ⅱ 生涯学習社会の実現
					個別目標	3 芸術文化を僮都雄するための環境づくりの推進
					具体的施策	(1) 市民会館事業の充実

目的	市民が芸術文化を身近に感じることができるよう、市民の芸術創造活動への参加と交流を促す。また、文化団体の支援を行うことにより、地域全体に芸術文化を普及させ、潤いと活力あるまちづくりの実現のために、自主芸術文化事業の企画・運営を行う。更に、市民のニーズに沿った芸術文化公演や展示会、文化庁・各財団等の補助・助成金を活用した事業を実施する。
----	---

主な取組	① 地域の芸術文化を生かしたまちづくりの展開 取組の内容: 市民へ、人とまち、人と文化をつなぐ新たな芸術創造活動への参加と交流を促し、潤いと活力のあるまちづくり実現のための自主文化事業を年に約20回の公演の企画・運営を行っている。	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
		公演の鑑賞者増を図るための広報・周知として、市民のひろばへの掲載及び市内小中学校へのチラシ配布また、市内及び近隣町村の公共施設等へのポスター、チラシ配布を行い、周知を図っている。				広報・周知については、現状の取り組みだけでなく、今後更なる集客増が期待できるような手法について十分に検討する必要がある。				
		成果指標	目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
			令和元年度	新たな芸術創造活動により潤いと活力のあるまちづくりの実現	平成30年度	芸術創造活動により潤いと活力のあるまちづくりの実現	<ul style="list-style-type: none"> ・NHKのど自慢公開生放送番組(1,000人/1,000人) ・中川賢一(ピアノ)&クワチュールペー(サクソ四重奏)コンサート(250人/250人) ・玉川大学芸術学「ちゃんぶるーシアター2018」(450人/350人) ・秋の夕暮れブックピクニックVol.2～絵本に触れ合う機会を増やそう～(1,240人/1,000人) ・劇団民藝朗読劇「金城哲夫物語」～光の国から僕らのために～(170人/250人) ・劇団チームスポットジャンブルkeikobarVol.9 (500人/600人) 	目標入場者数値にほぼ達成できた。市内及び近隣市町村への広報、周知活動に力を入れた成果が集客に反映された。今後も更なる集客増に力を入れていきたい。	実施値	6回
				5回		5回				100%
		100%	100%							
		公演の企画数	5回	5回	100%	100%				
		公演の鑑賞者入場率	100%	100%	100%	100%				
		公演の企画数	5回	5回	100%	100%				
		公演の鑑賞者入場率	100%	100%	100%	100%				
② 市民参加型事業の充実(ビックリクリスマス等) 取組の内容: 芸術文化を鑑賞するという立場から、自らが実際に芸術文化に触れ、参加・体験することにより、芸術文化への関心が高まる。	平成27年度現状				現状をもたらした原因					
公演の鑑賞者増及び事業への参加者増を図るための広報・周知として、市民のひろばへの掲載及び市内小中学校へのチラシ配布また、市内及び近隣町村の公共施設等へのポスター、チラシ配布を行い、周知を図っている。				広報・周知については、現状の取り組みだけでなく、今後更なる集客増が期待できるような手法について、十分に検討する必要がある。						
成果指標	目標		目標		取組概要		成果及び反省点			
	令和元年度	市民自らが、直接芸術文化に、触れ参加することにより、地域の芸術文化の活性化へと繋げる。	平成30年度	市民自らが、直接芸術文化に、触れ参加することにより、地域の芸術文化の活性化へと繋げる。	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み企画「デュエット」ピアノワークショップ鑑賞者100人/市民参加24人/20人 ・第34回市民音楽祭(鑑賞者500人/600人)(市民参加16団体290人/200人) ・名護のビックリクリスマスコンサート(鑑賞者500人/600人)市民参加(98人/80人) 	参加型ワークショップ等を開催することで、文化や芸術に更に興味を持たせ、文化力で地域を盛り上げることができた。なお、発表の場においては鑑賞者増に繋がるよう周知・広報をもっと工夫する必要がある。	実施値	3回		
		3回		3回				100%	100%	
100%	100%									
公演の企画数	3回	3回	100%	100%						
公演の鑑賞者入場率	100%	100%	100%	100%						
公演の企画数	3回	3回	100%	100%						
公演の鑑賞者入場率	100%	100%	100%	100%						
③ 高齢者、障がい者施設へのアウトリーチ事業の拡充 取組の内容: 芸術鑑賞体験の機会が制限される福祉施設等の社会的弱者へ質の高い芸術文化を身近に体験させることにより、豊かな感性を育み、また、芸術文化への関心へと繋げる。	市内の各高齢者・障がい者施設等、全ての施設において事業実施できるかが、課題である。				市内の各施設と連携を密にし、計画的なアウトリーチ事業の実施・展開が必要である。。					
成果指標	目標		目標		取組概要		成果及び反省点			
	令和元年度	アウトリーチ事業を継続して展開し、芸術文化に関心のある層を増やし、観客増に繋げる。	平成30年度	アウトリーチ事業を継続して展開し、芸術文化に関心のある層を増やし、観客増に繋げる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「琉球交響楽団金管アンサンブル」Jin児童養護施設なごみ(鑑賞30人) ・「琉球交響楽団アンサンブル」Jin県立北部病院ロビー(2回公演)(鑑賞200名) ・弦楽四重奏と声楽で奏でる音楽の玉手箱in生活介護支援事業所とらいあんぐる(90人) ・「フッソウゲの樹木を使って和紙をつくろう」Jin県立名護特別支援学校(参加30人)2回 	日頃、劇場に足を運ぶことが難しい方々に身近に芸術に触れる機会を提供することで、癒しと安らぎで元気回復を促し、毎回開催してほしいと要望があった。今後も地域や施設と連携し、回数増を目指したい。	実施値	6回		
		5回		5回				100%	100%	
100%	100%									
企画回数	5回	5回	100%	100%						
企画回数	5回	5回	100%	100%						

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	総合評価(A・B・C・D)	A	B	B				
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての取組で目標達成している。 ・特にアウトリーチ事業の企画数が年々増えて良い。 						

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	総合評価(A・B・C・D)	A	B	A				
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ・各事業は成果を上げているが、アウトリーチ事業の拡大が望まれる。 ①・アウトリーチ先との連携協力など、地域に芸術文化を普及させる取り組みができています。 ③・障がい者施設等へのアウトリーチ事業については、大変充実した内容で展開・提供されている。 						

具体的施策名	23. 次世代の芸術文化を担う人材育成の推進	主管課	文化スポーツ振興課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	Ⅱ 生涯学習社会の実現
					個別目標	3 芸術文化を偕都雄するための環境づくりの推進
					具体的施策	(2) 次世代の芸術文化を担う人材育成の推進

目的	未来の芸術文化を担い、支える人づくりに取り組むため、子どもを対象として芸術文化を体験する機会を提供することにより、芸術文化の担い手である子どもやその指導者等、双方の拡充を図り、活動発表・交流の場づくりを行う。
----	--

主な取組	-40-	① 子ども芸術支援事業の充実	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
		取組の内容: 次代を担う子どもたちが積極的に芸術文化活動へ参加できる環境づくりに努め、時代のニーズに沿った指導等を行い、子どもたちが感受性及び創造性を発揮できるよう指導者等と連携を図りながら、協同でその環境整備を図っていく。	各団の団員確保及び指導者確保に苦慮している。				近年、子どもたちを取り巻く生活環境は時代と共に変化する中で、低学年より部活動や習い事などが盛んになり、団員を募るも厳しい現状にある。また、指導者についても、専門的な知識や経験を有する者が少なく、同様に厳しい状況下にある。			
		成果指標	団員数	令和元年度	目標	平成30年度	目標	取組概要	成果及び反省点	
			活動(練習)回数		60人		60人			
			公演開催回数		135回		135回			
		実施値		3回	3回	・名護ジュニアオーケストラ(24人/活動50回) ・名護市児童劇団(20人/活動34回) ・名護市児童合唱団(22人/活動51回) ・第22回名護ジュニアオーケストラ定期演奏会ニューイヤーコンサート～琉球交響楽団を迎えて～(200人) ・第21回名護市児童劇団定期公演「賢者の石」(550人) ・第7回名護市児童合唱団定期演奏会(120人) ・第34回市民音楽祭(ジュニアオーケ・児童合唱団出演)500人 ・地域活動として、ビーチクリーン活動(3回)やB&GプールリニューアルOP出演(合唱団)	芸術活動に参加することで、想像力、創造性、感受性を養われる成果は大きい。ジュニアオーケ、児童合唱団の定期公演成果発表の観客が少ないためもっと周知・広報に努力が必要。			
		② 市内の学校等と連携したアウトリーチ事業の展開	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
		取組の内容: プロのアーティストを招聘し、市内小中学校に派遣し、ワークショップやミニコンサートを実施。児童生徒が芸術文化を身近で鑑賞・体験することにより芸術への関心度を高める。	本アウトリーチ事業を実施することにより、子どもが持つ優れた感性と個性を伸ばし、豊かな情操を育む、感性豊かな子どもの育成に繋がっているか。				本事業は、学校の授業の一環として、取り組んでいる事業であるため、今後の事業実施においても、学校側及び担当の教職員と連携を密にして進めていくことが重要である。			
		成果指標	開催回数	令和元年度	目標	平成30年度	目標	取組概要	成果及び反省点	
			開催校数		25回		25回			
実施値	11校		11校							
実施値				・劇団「青年劇場」による表現ワークショップ 対象:大北小5年生25人 ・クワチュールベー(サクソ四重奏)&中川賢一(ピアノ) 対象:名護高50人 ・ピアノデュオデュエット&原寛(映像) 対象:栄光幼稚園60人 ・劇団「青年劇場」演劇「あの夏の絵」鑑賞・体験 対象:久辺小・瀬喜田小・久志中260人 ・「琉球交響楽団アンサンブル+パーカッション」対象:大北小(3回)426人 ・琉球交響楽団室内オーケストラ(18人編成)対象:屋部小650人 ・野尻小矢佳(パーカッション)&新崎誠実(ピアノ)対象:緑風学園100名 ・東涼太(SAX)&謝花千春(ピアノ)対象:東江小(2回)150人 ・浜まゆみ(マリンバ)&デュエット(ピアノ)&大森智子(ソプラノ)対象:真喜屋小90人 ・浜まゆみ(マリンバ)&デュエット(ピアノ)&大森智子(ソプラノ)対象:稲田小100人 ・琉球交響楽団室内オーケストラ(18人編成)対象:久辺小+久辺中250人 ・琉球交響楽団室内オーケストラ(19人編成)対象:東江小400人 ・青木るね(ヴァイオリン)&長南牧人(チェロ)&謝花千春(ピアノ)対象:屋部小50人 ・昭和音楽大学大森智子門下生～音楽は夢の懸け橋ミニコンサート～対象:名護高50人	一流のアーティストと身近に触れ合うことで、コミュニケーション能力を高め、より芸術文化への関心を深めることができた。今後も各学校と連携を図り、多彩な事業を実施していきたい。					
③	平成27年度現状				現状をもたらした原因					
取組の内容:										
成果指標	目標	令和元年度	目標	平成30年度	目標	取組概要	成果及び反省点			
	実施値									
	実施値									

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	A					
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
	上記評価とした理由又は特記すべき事項							

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		A	B					
	総合評価 (A・B・C・D)	A						
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	②・学校等と連携したアウトリーチ事業については、子どもたちに大変良い機会が提供され、今後も継続充実が期待される。 ・アウトリーチ事業を行った効果について評価を行ってほしい。						

具体的施策名	24. 中央公民館の充実	主管課	地域力推進課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	Ⅱ 生涯学習社会の実現
					個別目標	4 公民館活動の充実
					具体的施策	(1) 中央公民館の充実

目的	市民ニーズに応じた各種事業に取組み、生涯学習機会の提供や市民が誰でも気軽集える生涯学習の拠点となるよう、施設の管理・運営の向上に努める。
----	--

主な取組	① サークル団体の支援及び発表機会の提供 取組の内容: 毎年サークル団体登録を行ってもらい、登録団体へは施設使用料の減免等を行っている。毎年10月から3月まで、1サークルにつき2週間の展示発表を中央公民館で行っている。	平成27年度現状				現状をもたらした原因					
		目標		目標		取組概要		成果及び反省点			
		令和元年度	稼働率の低い部屋の利用の促進を行い目標値に近づける	平成30年度	サークル団体の増	サークル登録団体数: 46 展示発表: 10/30から3/3まで開催9組のサークルが発表を行った。 舞台発表: 3/11福祉祭りと合同で開催 舞台系サークルへ参加希望アンケートを取り、6組のサークルが発表を行った。		・展示発表については、周知不足が原因と思われる。 ・舞台発表については観客が多く見込まれる市内イベントへ参加する支援を行った。			
						目標値	55団体	目標値	50団体	毎年サークル団体登録を行ってもらい、登録団体へは施設使用料の減免等を行っている。	サークル間で出来るだけ曜日と時間が被らないように調整している。調理室の稼働率が低いので、その分サークル増が可能である。桜祭りやその他市内イベントへの出演や、市外の発表会へ参加しているサークルもある。
						目標値	1回	目標値	1回		
		成果指標	中央公民館サークル団体数 サークル活動発表会	目標値	55団体 1回	目標値	50団体 1回	実施値	46団体 1回		
		② 社会的な課題をテーマにした講座の実施 取組の内容: 社会の変化や要望に応じた講座を実施し、市民活動の向上を目指している。	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
			目標		目標		取組概要		成果及び反省点		
			令和元年度	市民生活向上につながる講座の開催	平成30年度	市民生活向上につながる講座の開催	(公民館提案型講座: 13回) ・世界にひとつだけ♡つまみ細工エコサーージュ作り: 12人 ・楽しい将棋教室: 24人 ・オリオンビールわくわくサイエンスツアー: 83人 ・夏休み宿題お助け講座: 12人 ・運動会に持って行きたい☺マイクラフトバッグ作り: 21人 ・癒しのハーバリウム作り体験講座: 24人 ・紅型体験講座: 11人 ・いい夫婦の日 ムーン&スターウォッチング講座 ・eスポーツ体験: 200人 ・野鳥観察会: 22人 ・泡盛仕次ぎ講座: 35人 ・大切な朝ごはん〜ひとり〜講座: 20人 ・子ども将棋大会 in NAGO: 24人		市民アンケートや学校アンケートを基に講座を企画し、地域コーディネーターの協力で周知もうまくいったと考えられる。		
							(地域課題解決型講座: 7回) ・大切な朝ごはん〜ひとり〜講座: 39人(2か所で開催) ・親子でMy苔テラリウムづくり: 30人 ・「わたし」の元気は家族の元気女性のホルモンバランス講座: 24人 ・タグラグビー講座: 68人 ・春休み 春のほしぞら講座in羽地ダム: 31人 ・ガマからのメッセージ: 0人(台風の為)		羽地展や福祉祭りなど、人が集まる場所に出向き講座を開催した事で、参加者増に繋がった。		
(乳幼児期講座: 1回) ・ママはおうちのセラピスト〜ベビーマッサージ+αママもベビーもリフレッシュ〜: 13組(0歳から2歳児): 22人							対戦型コンピューターゲームで競う「eスポーツ」は、2018年8月のアジア大会では公式公開競技にも採用され、2024年にはオリンピックでの採用も検討されており、福祉祭りでは約200人の参加があった。				
成果指標	講座実施数 講座受講定員率		目標値	25講座 100%	目標値	25講座 100%	実施値	21講座 84.00%			

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	総合評価 (A・B・C・D)	A	B					
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	②・多くの講座の中で、受講定員率84%は評価する。 ・「eスポーツ」競技の採用も評価する。						

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	総合評価 (A・B・C・D)	B	B					
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	①・サークル活動の市民への周知及びより多くの市民が参加できる「講座」内容の検討。 ②・乳幼児期講座は需要が高いと考えるが、参加者や回数を増やすための検討が必要。						

具体的施策名	25. 地域公民館の充実	主管課	地域力推進課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	Ⅱ 生涯学習社会の実現
					個別目標	4 公民館活動の充実
					具体的施策	(2) 地域公民館の充実

目的	市民が気軽集える生涯学習の拠点となるよう、地域公民館の活動を支援する。
----	-------------------------------------

主な取組	① 「名護市公民館連絡協議会」との連携の充実 取組の内容: 各区の公民館長や書記を対象にした研修会を年に1回実施し、連携の充実を図る。	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
		H27年9月3日、屋我公民館にて各公民館維持管理費についての研修会を行った。		平成26年4月1日に各区コミュニティ施設と名護市で交わした協定書の内容が周知不足であった事と、各区長の交代もあり、内容確認のために研修会を行った。		取組概要		成果及び反省点	
	成果指標	公民館職員研修会		令和元年度	平成30年度	研修会の実施		公民館職員の研修会及び調査研究について有意義な研修会となった。	
		目標	1回	目標値	1回	・泡盛仕次ぎ講座(参加者数35人)		実施値	1回
	② 各区及び他機関と連携した講座の実施 取組の内容: 地域の公民館等を活用し、地域移動講座を実施します。	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
		各支所に配置されている社会教育主事と連携し、地域の要望課題を取り入れた講座を実施した。		H27年度は羽地と久志の2支所から課題解決型の講座開催要望があったため。		取組概要		成果及び反省点	
	成果指標	地域移動講座		令和元年度	平成30年度	地域の要望及び課題解決型講座の開催		地域から要望に沿った講座を各支所と連携し、各支所を活用した講座を開催して行く。	
		目標	7回	目標値	5回	屋我地支所 ・親子でMy苔テラリウムづくりを開催(参加者数30人) 羽地支所 ・大切な朝ごはん ～ひとりでもできるよ～講座を開催(参加者数23人) ・春休み 春のほしぞら講座in羽地ダムを開催(参加者数31人) 屋部支所 ・大切な朝ごはん ～ひとりでもできるよ～講座を開催(参加者数16人) ・わたし」の元気は家族の元気女性のホルモンバランス講座を開催(参加者数24) 久志支所 ・タグラグビー講座を開催(参加者数24)		実施値	6回
	③	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
		取組概要		成果及び反省点		取組概要		成果及び反省点	
	成果指標	地域移動講座		令和元年度	平成30年度	取組概要		成果及び反省点	
		目標		目標値		取組概要		実施値	
	④	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
		取組概要		成果及び反省点		取組概要		成果及び反省点	
	成果指標	地域移動講座		令和元年度	平成30年度	取組概要		成果及び反省点	
		目標		目標値		取組概要		実施値	

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	総合評価 (A・B・C・D)	B	B					
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	・地域の活性化の為に、公民館活動の充実は必要である。 ①・研修内容は、公民館長及び書記へ、区民の地域力向上を目指した取組み内容にする。 ・核となる各公民館での防災は必要であり、もっと設置率を上げる工夫が必要。						

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	総合評価 (A・B・C・D)	B	A					
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	①・地域公民館の活性化につながる研修のあり方が望まれる。 ・防災に関する研修会は毎年やってもよい。 ②・各地区での事業が難しくなっていく中でよくやっていると評価する。						

具体的施策名	26. スポーツ活動事業の推進	主管課	文化スポーツ振興課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	Ⅱ 生涯学習社会の実現
					個別目標	5 スポーツ・レクリエーション活動の充実
					具体的施策	(1) スポーツ活動事業の推進

目的	市民が気軽にスポーツに親しめる環境づくりに取り組む。
----	----------------------------

主な取組	① 各種スポーツ教室の開催(テニス、水泳、ウォーキング等) 取組の内容:各種スポーツ教室の開催	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
		各種スポーツ教室や地域イベントでのスポーツ体験教室、体力測定、ツール・ドール輪車大会、チュックボール大会を開催している、高齢者の方々が参加できる環境がまだ不足している。				気軽にスポーツに親しめる環境づくりに取り組んでいるが、スポーツに馴染みのない市民も多いことから、地域に向いての活動を増やす必要がある。			
		目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
		令和元年度	子どもから高齢者まで市民が気軽にスポーツに親しめる環境づくりに取り組む。	平成30年度	子どもから高齢者まで市民が気軽にスポーツに親しめる環境づくりに取り組む。	・シーカヤック教室(40/40人) ・少年少女水泳教室(53人/53人 10回講座) ・ニュースポーツ体験(屋我地祭り100名、ツデーマーチ400名) ・スポーツ教室(卓球教室60名、サッカークリニック60名、タグラグビー教室40名) ・スポーツ講演会(80名) ・ツール・ドール輪車大会(279人) ・チュックボール大会(41人) ・小学校交流駅伝競走大会(参加者:408人)	・地域イベントでのスポーツ教室等を開催することで、気軽にスポーツに親しむ環境づくりに取り組んでいるが、今後は、幅広い世代が参加できる活動に取り組みたい。		
			実施値		1561名 11回				
		成果指標	スポーツ教室等への参加者数 地域スポーツ教室等の開催回数	目標値	2,000人 12回	目標値	1,200人 4回		
		平成27年度現状		平成27年度現状		現状をもたらした原因		現状をもたらした原因	
		夏季休業期間中に、学校プール施設(羽地中、久辺中、緑風学園)を活用し実施。		小中学校の夏季休業開始前に利用案内を行っていることもあり、利用者が多い。継続して実施したい。					
		目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
		令和元年度	学校プール施設(羽地中、緑風学園)を活用し、市民の体力向上と水泳の振興に努める。	平成30年度	学校プール施設(羽地中、緑風学園、久辺中)を活用し、市民の体力向上と水泳の振興に努める。	下記学校プールを活用し一般開放(20日間)を行った。 羽地中、緑風学園 合計790名	・学校プール施設を開放することで、普段水泳に親しむことがない市民が気軽に利用できる環境を整えており、引き続き事業を継続していきたい。		
実施値	790名								
成果指標	学校プール一般開放事業利用者数(20日間)	目標値	1,500人	目標値	1,200人				
平成27年度現状		平成27年度現状		現状をもたらした原因		現状をもたらした原因			
全国、九州、沖縄県、北部地区の研修会への参加及び自主研修を実施。新規委員の確保に向けた取組。		積極的に研修会へ参加し自己研鑽を重ねているが、新規の委員確保が厳しい状況となっている。							
目標		目標		取組概要		成果及び反省点			
令和元年度	スポーツ推進委員の資質向上及び技能向上を図り、必要な人員を確保する。	平成30年度	スポーツ推進委員の資質向上及び技能向上を図り、必要な人員を確保する。	・北部地区スポーツ推進委員研修会(6月開催:参加6人、3月開催:参加2人) ・沖縄県スポーツ推進委員研究大会及び研修会(8月開催:参加者12人) ・全国スポーツ推進委員研究大会(11月開催:参加者2名 宮崎県宮崎市) ・九州地区スポーツ推進委員研究大会(2月開催:13名 沖縄県那覇市) ・自主研修会:月例会を毎月第3木曜日に開催しており、毎回12、3人の名護市スポーツ推進委員が参加 ・教育委員会主催のスポーツイベントにおいて運営役員として活動 ツール・ドおきなわ輪車大会大会・沖縄県チュックボール大会 ※共催行事として、名護市ワラビピック	・各種研修会へ名護市スポーツ推進委員が参加し、自己研鑽を重ねており、その成果を地域へ還元していることから、引き続き研修会への参加を促していきたい。しかしながら、委員も高齢化してきていることから、今後、新規委員の開拓も必要となっている。				
	実施値		16回						
成果指標	研修会・実技研修会開催数	目標値	16回	目標値	16回				

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	総合評価 (A・B・C・D)	B	B	B				
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	①・各種スポーツ教室、軽スポーツ大会等の広報活動を活発にして、多くの市民の参加に期待する。 ③・スポーツ推進委員の役割は大きい。スポーツに対する要望等を行政に大いに反映させてほしい。 ・毎年、成果と反省点で委員の高齢化の問題が出ており、早めの対策を望む。						

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	総合評価 (A・B・C・D)	A	B	B				
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	③・新規委員の確保をどのように行うのが今後の課題である。						

具体的施策名	27. 青少年のスポーツ活動の推進	主管課	文化スポーツ振興課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	Ⅱ 生涯学習社会の実現
					個別目標	5 スポーツ・レクリエーション活動の充実
					具体的施策	(2) 青少年のスポーツ活動の推進

目的	子どもたちにスポーツの楽しさや達成感などを実感できる環境を整備することで、スポーツ活動の推進を図る。
----	--

主な取組	① ジュニアを中心としたトップアスリートの育成・強化及びスポーツ少年団の組織化及び指導者育成の推進 取組の内容: スポーツ少年団等の指導者育成を図るため講習会を開催する	平成27年度現状				現状をもたらした原因					
		子どもたちのスポーツ活動に関する課題(練習時間の過多、食事面など)が出ている。				子どもたちのスポーツ活動に関わる指導者の育成・確保に取り組む必要がある。					
		成果指標	令和元年度	目標		平成30年度	目標		取組概要	成果及び反省点	
				多くのスポーツ団体等の指導者が講習会を受講する環境を整える			多くのスポーツ団体等の指導者が講習会を受講する環境を整える				
				目標値	2回		目標値	2回			
				目標値	100名		目標値	50人			
				20団体			20団体	市内のスポーツ団体等の指導者を対象にテーピング講習会を開催(受講者数25人)。		実施値	1回
										25名	
										18団体	
		② プロ選手やトップアスリートによるスポーツ教室の開催 取組の内容: 県内・県外で活躍するプロ選手によるスポーツ教室を開催する。									
		平成27年度現状				現状をもたらした原因					
		ハンドボール、バスケットなど県内のプロ選手によるスポーツ教室を開催。				県内においてハンドボールやバスケットなどのプロリーグの立上げにより、一流選手のプレーを身近に観ることができる環境が増えたことやスポーツ教室等の開催も増えてきている。					
成果指標	令和元年度	目標		平成30年度	目標		取組概要	成果及び反省点			
		子どもたちの感性を刺激し、今後のスポーツ活動に役立てる。			子どもたちの感性を刺激し、今後のスポーツ活動に役立てる。						
		目標値	3回		目標値	3回					
		目標値	300名		目標値	50人					
						トップアスリートを招聘し、子どもたちへのスポーツ教室。講演会を開催。(卓球教室(森蘭美月)60名・サッカークリニック(比嘉祐介)60名・ラグラグビー教室(銘苅信吾)40名、スポーツ講演会(瀬立モニカ)80名)		実施値	3回		
								240名			
③ 取組の内容:											
平成27年度現状				現状をもたらした原因							
成果指標	令和元年度	目標		平成30年度	目標		取組概要	成果及び反省点			
		目標値			目標値						
		目標値			目標値						
								実施値			
④ 取組の内容:											
平成27年度現状				現状をもたらした原因							
成果指標	令和元年度	目標		平成30年度	目標		取組概要	成果及び反省点			
		目標値			目標値						
		目標値			目標値						
								実施値			

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	総合評価 (A・B・C・D)	C	B					
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	①・児童の体力及び学力等の様々な観点及び各スポーツ団体等規則改正等から、早めの指導者の育成・確保に取り組む必要がある。 ・青少年のスポーツ活動で最も大切なのは指導者の姿勢であり、啓蒙活動を活発にし、各種スポーツ団体とも協力して強化が必要。						

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	総合評価 (A・B・C・D)	C	B					
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	①・子どもたちの体力、健康づくり、練習時間及び健全育成の立場からの指導者講習会のあり方が望まれる。 ・講習会に関しては、児童生徒の安全な取り組みの観点から指導者だけではなく保護者のみの講習会も実施したほうがよい。						

具体的施策名	28. 競技スポーツの推進	主管課	文化スポーツ振興課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	Ⅱ 生涯学習社会の実現
					個別目標	5 スポーツ・レクリエーション活動の充実
					具体的施策	(3) 競技スポーツの推進

目的	名護市体育協会や名桜大学等と連携し、競技者の育成及び競技力向上を図る。
----	-------------------------------------

主な取組 -45-	① スポーツ関係団体支援事業	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
	取組の内容: 各種競技大会における共催・後援等の支援、名護市体育協会への助成を活用した3支部体育協会への支援を行う。	名護市体育協会を中心として、各種スポーツ団体の活動を支援。				競技スポーツの推進を図ることを目的としている名護市体育協会と連携し、支援することで各種スポーツ団体の競技力の向上に繋げている。				
	成果指標	名護市体育協会専門部の団体数		令和元年度	平成30年度	各種競技大会への共催・後援、競技役員への支援。名護市体育協会への助成金を活用した3支部体育協会(北体協、南体協、久志体協)の活動支援。	取組概要		成果及び反省点	
		目標	20団体	目標値	20団体		実施値	20団体		
		目標値		目標値				・各競技大会の支援に取り組むことで、底辺拡大を図り、競技者の育成に繋げていきたい。		
	② 県レベルの大会やスポーツイベントの開催	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
	取組の内容: NAGOハーフマラソン、沖縄本島唯一のなごうらマラソン、アフター5EKIDEN、ツール・ドおきなわ輪車大会の開催支援。	各種スポーツイベントの開催支援。				名護市体育協会やツール・ドおきなわ協会と連携し、スポーツイベントを開催している。				
	成果指標	大会・スポーツイベント開催件数		令和元年度	平成30年度	NAGOハーフマラソン、ツール・ドおきなわ輪車大会の開催支援。また、名護市体育協会主催による各種競技大会への支援し、沖縄県民体育大会での上位入賞を目指す。	取組概要		成果及び反省点	
		目標	2件	目標値	4件		実施値	2件		
		目標値	2団体	目標値	5団体			・各種イベントのPRや地元ボランティアの協力により、大会運営が充実してきた効果もあり、県外からの参加者が増加している。 ・市体協主催の競技大会を支援することで、競技力の向上に繋げていきたい。		
	③	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
	取組の内容:									
成果指標			令和元年度	平成30年度		取組概要		成果及び反省点		
	目標		目標値			実施値				
	目標値		目標値							
④	平成27年度現状				現状をもたらした原因					
取組の内容:										
成果指標			令和元年度	平成30年度		取組概要		成果及び反省点		
	目標		目標値			実施値				
	目標値		目標値							

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	総合評価 (A・B・C・D)	B	B					
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	①・3支部体育協会への支援金助成だけでなく、競技者の底辺拡大を図る支援をする必要がある。 ②・NAGOハーフマラソン、ツール・ド沖縄の成果は素晴らしい。その他の競技イベントの誘致活動の努力が必要である。						

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	総合評価 (A・B・C・D)	B	B					
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	・事業の目的が現状と合わなくなってきたように感じる。次年度以降は目的の見直しも必要。						

具体的施策名	29. 社会体育施設の整備	主管課	文化スポーツ振興課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	Ⅱ 生涯学習社会の実現
					個別目標	5 スポーツ・レクリエーション活動の充実
					具体的施策	(4) 社会体育施設の整備

目的	施設の維持管理及び利用者が快適に活動できる施設の整備拡充を図る。
----	----------------------------------

主な取組	① 真喜屋運動広場の再整備事業 取組の内容: 多目的広場として、様々なスポーツが快適かつ安全に行えるよう拡張整備を実施する。	平成27年度現状				現状をもたらした原因							
		目標		目標		取組概要				成果及び反省点			
		令和元年度	整備事業の完了済(平成28年度)		平成30年度	本体整備工事の完了		森林法に基づく保安林指定の解除及び都市計画法に基づく開発行為許可の手に時間を要したことから、H29年度へ一部工事を繰越すこととなった。				完了	
			目標値	完了(H28)		目標値	完了						
	成果指標	真喜屋運動広場の拡張整備		実施値									
	② 体育施設維持管理業務及び改修事業 取組の内容: 施設の維持管理及び経年劣化している設備等の更新を実施する。		平成27年度現状				現状をもたらした原因						
	不具合等が生じている箇所の修繕を行い、維持管理に努めた。		設備等の経年劣化による不具合が度々生じている。				取組概要		成果及び反省点				
	令和元年度	利用者が快適に利用できるよう維持管理を行う		平成30年度	利用者が快適に利用できるよう維持管理を行う		・管理施設として、21世紀の森体育館、名護市陸上競技場、羽地ダム多目的広場、真喜屋運動広場、名護市B&G海洋センタープールがあり、指定管理者による運営管理を行っている。また、不具合等の修繕等を行っている。 ※NPO法人名護市体育協会管理: 21世紀の森体育館、名護市陸上競技場、羽地ダム多目的広場、真喜屋運動広場 ※名護市B&G海洋センター指定管理者共同企業体: 名護市B&G海洋センタープール				・利用者が増えている一方、経年劣化による不具合箇所の修繕も多くなっている。		
		目標値	250,000人		目標値	200,000人							
	成果指標	管理施設利用者数		実施値	187,369名								
	③	平成27年度現状				現状をもたらした原因							
		目標		目標		取組概要				成果及び反省点			
		令和元年度			平成30年度								
			目標値			目標値							
	成果指標			実施値									
	④	平成27年度現状				現状をもたらした原因							
目標		目標		取組概要				成果及び反省点					
令和元年度				平成30年度									
		目標値			目標値								
成果指標			実施値										

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	②・施設の充実＝市民サービスにつながるため、順次修繕し、経年劣化への早急な対応を望む。 ・施設の不具合の修繕が最もだが、21世紀の森体育館のトイレの洋式化も早急に進めてほしい。 ・既存の施設だけでなく、新しい施設建設にも積極的に取り組んでほしい。						

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	②・市の体育施設の総合的な運動公園の早期実現を期待したい。 ・大規模な改修や建て替えの計画も必要。						

具体的施策名	30. 青少年の健全育成事業の充実	主管課	地域力推進課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針 Ⅲ 学校・家庭・地域の連携・協力体制づくり 個別目標 1 地域・家庭の教育力の再生 具体的施策 (1) 青少年の健全育成事業の充実
--------	-------------------	-----	--------	----------------------	---

目的 青少年の健全育成体制の充実及び家庭教育の支援を図るため、学校・家庭・地域及び関係機関が連携して、地域全体で子どもを育む体制を整えています。

主な取組 ① 「名護市青少年育成協議会」活動の充実 取組の内容: 第36回名護市青少年の主張大会の実施、善行青少年、育成功労者表彰の実施し、青少年健全育成体制の充実を図っている。	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
	各支部を対象に青少年健全育成提案型助成事業を実施した。				各支部組織の充実・強化を図ることで、地域社会の健全な発展と青少年の健全育成に繋がるため実施した。				
	令和元年度	目標	青少年が心身ともに健全な社会人として成長するよう、家庭、学校、地域社会、関係団体が連携し、青少年の健全な育成を図る。	目標	青少年が心身ともに健全な社会人として成長するよう、家庭、学校、地域社会、関係団体が連携し、青少年の健全な育成を図る。	取組概要	<ul style="list-style-type: none"> ・青少協総会・役員会等(93名) ・善行青少年及び育成者功労表彰審査会(7名) ・善行青少年及び育成者功労表彰(4個人、1団体) ・名護市青少年育成協議会「ふるさと・未来・絆リーダー研修」(述べ180人) ・第38回名護市青少年の主張大会(111人) 会場: 緑風学園 ・県民一斉行動夜間街頭指導活動・夏祭り夜間街頭指導活動(182+149=331人) ・さくら祭り夜間街頭指導活動(109+92=201人) ・社会環境実態調査(22名) ・特別活動運営資金県連事業(あけみお学級体験活動3回) <ul style="list-style-type: none"> (1) マングローブカヌー大会(10人) (2) プロジェクトアドベンチャー体験(8人) (3) 面シナー作り体験(7人) ・青少年の健全育成を考慮した名護夏祭り終了時間に係る要請行動(5名) 		
		成果指標	青少年健全育成事業への参加者数	目標値	1,000人	目標値	1,000人	実施値	980人
	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
	毎年青少年の深夜はいかい防止市民大会を開催しているが、参加者が少ない状況にあり課題がある。※平成27年度は台風のため大会中止 夏祭り夜間街頭指導活動は、台風接近のため中止となった。さくら祭り夜間街頭指導活動を実施した。少年を守る日の夜間街頭指導活動は、5中校外指導部や少年補導員、青少年育成協議会と連携し実施。				・深夜はいかい防止市民大会は、開催日が平日の夕方ということもあり、一般の参加者が少ないのではないかと考えられる。また、青少年の問題行動が大きく取り上げられたときには、参加者が増えてくる傾向にあると感じる。 ・夜間街頭指導活動では、どのように声掛けしていいかわからないという声もあり、街頭指導ボランティアが声掛けしやすいよう、声掛け例を記したチラシを配布するなどし活動を継続していく。				
	令和元年度	目標	全市民が夜型社会を是正を図り、青少年の夜遊びや深夜はいかい防止を目指す。夜間街頭指導活動を実施し、青少年への帰宅指導に取り組む。	目標	全市民が夜型社会を是正を図り、青少年の夜遊びや深夜はいかい防止を目指す。夜間街頭指導活動を実施し、青少年への帰宅指導に取り組む。	取組概要	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度「青少年の深夜はいかい防止・未成年者飲酒防止・夏の交通安全県民運動・いじめ暴力根絶」名護市民大会(455名) ・県民一斉行動夜間街頭指導活動・夏祭り夜間街頭指導活動(182+149=331人) ・さくら祭り夜間街頭指導活動(109+92=201人) ※名護夏祭りはテナント営業終了時間が午後9時30分であることから、青少年育成協議会を含む14団体連名で祭り終了時間の配慮について、名護夏まつり実行委員会(商工会青年部)に平成28・29年度に続き、再度要請行動を行い、祭り終了時間が午後9時に改善された。 ○青少年の補導状況については、大幅な減少傾向にある。 ・未成年者の補導研修(年間)名護署署管内 H27(772人)⇒H28(587人)⇒H29(305人)⇒H30(325人) ・未成年者の深夜はいかい補導数(年間)名護署管内 H27(343人)⇒H28(351人)⇒H29(157人)⇒H30(118人) ・未成年者飲酒補導数(年間)名護署管内 H27(113人)⇒H28(44人)⇒H29(27人)⇒H30(75人) 		
		成果指標	「深夜はいかい防止等名護市民大会」参加者数 夜間街頭指導活動への参加者数 未成年者の深夜はいかい補導数(年間)名護署管内 未成年者飲酒補導数(年間)名護署管内 夏まつりにおける夜間街頭指導ボランティア数 さくら祭りにおける夜間街頭指導ボランティア数	目標値	500人 600人 0人 0人 230人 200人	目標値	300人 700人 0人 0人 230人 230人	実施値	455人 約600人 118人 75人 331人 201人
	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
	成人式典については、企画スタッフの協力もあり何事もなく終えることができた。式典後もロータリーを封鎖し車両を一方通行にし、暴走バイクやオープンカーによる道路の封鎖などの問題点の解消を図った。1件バイクの暴走があったが、警察署職員に対応してもらった。				前年度まで、式典後のロータリーへの暴走バイクやオープンカーによる道路の封鎖など問題があったことから、警察署の協力も得て、ロータリーを封鎖し車両を海側から野側から一方通行にしたことから、大きな問題行動もなく無事成人式典を終えることができた。また、親や先輩後輩のお酒の持ち込みも例年に比べ減っているように見受けられ、警察署、少年補導員協議会からも毎年このように行ってほしいとの意見をいただいた。				
令和元年度	目標	新成人が成人に達したことを社会的に認知し、新たな門出を祝福する。	目標	新成人が成人に達したことを社会的に認知し、新たな門出を祝福する。	取組概要	<ul style="list-style-type: none"> ・新成人企画スタッフを募集し、成人式典・その他について、企画スタッフ会議を数回実施し成人式を開催。暴走行為に関する対応は、総務部総務課総務係が行っている。 ※全体参加者数: 合計約1,000名 新成人約650人、報道関係者3人、保護者・関係者約350人 ※道路交通違反16件 (ノヘル2件、シートベルト3件、乗車積載方法違反2件、騒音運転9件) 			
	成果指標	成人式典の新成人参加者数 問題行動発生件数	目標値	800人 0件	目標値	800人 0件	実施値	約650人 0件	
平成27年度現状				現状をもたらした原因					
ふるさと・未来・絆リーダー研修の実施 名護市子連リーダー・ジュニアリーダー・育成者合同研修会				ふるさと・未来・絆リーダー研修が雨天のため日程の変更が続く中、高校生のリーダーシップや名桜大学生ボランティアのサポートにより、団員が声を掛け合い協力しながらPA体験や自然体験、野外炊飯などの活動を行った。また、市子連の研修では、心肺蘇生法やリーフ体験、ウミガメの卵の観察など大自然に触れ、感性を磨く機会となった。					
令和元年度	目標	自然に触れ、生きる力を養い、異年齢集団で活動し、協調性・規範意識を学ぶ機会とする。	目標	自然に触れ、生きる力を養い、異年齢集団で活動し、協調性・規範意識を学ぶ機会とする。	取組概要	<ul style="list-style-type: none"> ・名護市青少年育成協議会「ふるさと・未来・絆リーダー研修」(述べ180人) ・班長・副班長(事業説明、座学、アイスブレーキング練習、全体事前研修の準備) ・全体事前研修①(アイスブレーキング、シーカヤック、嘉陽層褶曲見学) ・全体事前研修②(宿泊研修、野外炊飯、草編み玩具体験、交流会練習、博物館見学) ・全体事前研修③(交流会練習、県外研修事前学習) ・本研修(県外研修、電車体験、国立科学博物館見学、うどん打ち体験、交流会、文化発表、茂林寺見学、防災教育センター体験) ・事後研修(名護街なか散歩、名所・文化財・史跡見学) 名護市子ども会育成連絡協議会「初級ジュニアリーダー・子どもリーダー研修 春キャンプ」(56人) 			
	成果指標	自然体験活動の実施回数	目標値	2回	目標値	2回	実施値	4回	

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	総合評価 (A・B・C・D)	B	B	B	A					B	B	B	B				
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	②・ターゲットを絞り広報活動を行った方が良い。 ③・これまでの成人式の在り方に満足する事なく、成人式の目的を今後も検討する必要がある。								③・令和4年度からの18歳成人を見据えた今後の成人式のあり方について、実施の有無も含め根本的な見直しと、工夫改善が必要。							

具体的施策名	31. 家庭教育の支援	主管課	総務課、学校教育課、地域力推進課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針 個別目標 具体的施策	Ⅲ 学校・家庭・地域の連携・協力体制づくり 1 地域・家庭の教育力の再生 (2) 家庭教育の支援
--------	-------------	-----	------------------	----------------------	-----------------------	--

目的	青少年の健全育成体制の充実及び家庭教育の支援を図るため、学校・家庭・地域及び関係機関が連携して、地域全体で子どもを育てる体制を整えていきます。
----	---

主な取組	① 「家庭教育支援事業」の推進	平成27年度現状	平成27年度は、家庭教育支援チーム員や子どもの家の支援者を中心に、親のまなびあいプログラムや研修会に取り組んできました。また、学校の授業参観やスポーツ団体の大会に合わせ保護者や指導者を対象に「親まなびあいプログラム」講座を実施し、実施校校長や参加者から好評を得ている。平成28年度からは家庭教育支援チームが中心となり、家庭教育についてのニーズを把握し、関係団体や幼小中学校で保護者への学びの場が提供できるよう取り組む。	現状をもちた原因	家庭教育は、子どもの生活習慣の確立や規範意識の向上など重要な役割を担っている。しかし、家庭を取り巻く教育環境は大きく変化し、家庭教育が困難な社会になっている。保護者への学びの場や情報交換の場を提供し家庭教育力の向上に取り組む必要がある。	
	取組の内容	家庭教育支援チームを組織し、保護者や子育て支援関係者への研修会・講演会等の学習機会の企画・実施や家庭教育支援アドバイザーの養成、成長発達段階の子どもとの関わり方を学ぶ「親のまなび愛プログラム」に取り組む。	目標	目標	取組概要	
	成果指標	研修会等への参加者数	令和元年度 目標値 300人	平成30年度 目標値 300人	保護者を対象に様々な親の学びの場の提供を行った。 <親の学びの場の提供>(講演会等) ①『NTTdocomoスマホ・ケータイ安全教室』(7人) ②『子どもの将来を考えるキャリア教育 講演会』(51人) ③『心が育つIQ絵本講座』(36人) ④『ミニ講座～あなたは今のままで大丈夫♪in名護小』(35人) ⑤『大人が変われば、子どもは変わる』～30秒で子どものやる気を引き出すヒント！～(87人) ⑥『ミニ講座～あなたは今のままで大丈夫♪inさくら祭り』(18人) ⑦お父さん応援講座『仕事も家庭も上手に行かせる戦略！』(9人) (親子体験) ①『親子でアフリカごはん&音楽体験』(37人:親子11組)、第2回(24人:親子9組) <交流の場作り+情報提供> ①『ゆんたくはんたくカフェ』屋我地ひるぎ学園(7人) 稲田小学校(8人) 名護小学校(35人)	成果及び反省点
					参加者から好評を得ている。 家庭教育支援チーム人材の発掘 保護者への効果的な周知方法について検討する必要がある。 実施値 514人	
主な取組	② 子育てについての課題や悩みを解消するため、地域や学校と連携した講座の実施	平成27年度現状	社会教育指導員(3人)を中心に、前年度中に全小中学校にアンケート調査を実施し、各学校から要望のあった11校にて課題解決のための講座を行った。	現状をもちた原因	市民アンケートや学校アンケートを基に講座を企画し、地域コーディネーターの協力で周知もうまくいったと考えられる。	
	取組の内容	子どもの発達段階に応じた子育てについての課題や悩みを解消するため「乳幼児期」「学童期・思春期」講座を学校と連携して実施。	目標	目標	取組概要	
	成果指標	課題別子育て講座回数	令和元年度 目標値 0回	平成30年度 目標値 0回	平成30年度より開催なし	成果及び反省点
						0回
主な取組	③ 「家庭の日」・「早寝・早起き・朝ごはん運動」や「6:30運動」の推進	平成27年度現状	各中学校区学力向上推進委員会で「早寝・早起き・朝ごはん運動」「6:30運動」「家庭の日」について啓発を行う。また、防災無線による6時30分の時報放送を実施している。	現状をもちた原因	学校と家庭、地域社会が連携し、家庭・地域の教育力を高めると共に、幼児児童生徒の健全育成が必要なため	
	取組の内容	学力向上推進委員会社会力育成部会にて、「早寝・早起き・朝ごはん運動」「6:30運動」「家庭の日」の啓発活動に取り組む	目標	目標	取組概要	
	成果指標	社会力育成部会の開催回数 早寝が習慣化している児童生徒の率 早起きが習慣化している児童生徒の率 朝ごはんを食べている児童生徒の率 6:30運動の周知率(小中学校、PTA、区)	令和元年度 目標値 4回 95% 80% 95% 100%	平成30年度 目標値 4回 95% 80% 95% 100%	学力向上推進委員会家庭地域教育部会にて、「早寝・早起き・朝ごはん運動」「6:30運動」「家庭の日」の啓発活動に取り組む方針を確認し、地域懇談会では「家庭の日」「早寝・早起き・朝ごはん運動」「6:30運動」等について、保護者だけでなく地域の方々に取り組みの紹介や意見交換を行った。	成果及び反省点
					市内小中学校からは、子ども達の生活習慣の確立や保護者の家庭教育の意識向上に役立っているなど好評を得ているが、部活動との連携が不十分との声もある。 実施値 3回 75.30% 89.10% 93.05% 75.33%	
主な取組	④ 弁当の日の実施	平成27年度現状	小中学校内の食育授業や講演会等をとおして弁当の日の実施を啓発しており、H26年度には4校の実施があった。	現状をもちた原因	食育教育の一環として、市内の小中学校にて実施しているが、全校実施には至っていない。	
	取組の内容	弁当の日を実施することで献立づくり、買い出し、料理、調理、片づけまで、子どもが1人でつくることによる食への興味を引出し、食物、食肉などその命をいただき、命の尊さ、そして料理をつくる人、ご両親、給食センターで働く調理員、職員に関係する方々に感謝の気持ちを育む。	目標	目標	取組概要	
	成果指標	弁当の日実施校 弁当の日に関する講演会	令和元年度 目標値 21校 1回	平成30年度 目標値 14校 1回	名桜大学上級准教授の前川美紀子氏による「地域連携の重要性」をテーマに講演会開催(参加者30名) 【弁当の日実施校】市内の市立小中学校全校で実施。	成果及び反省点
					全校で実施した。令和元年度までの全校実施に向けて講演会等をとおして啓発を行いたい。 実施値 21校 1回	

②については、中央公民館の充実と地域公民館の充実の事業において実施。評価評価対象外とする

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	総合評価 (A・B・C・D)	B	B	B	B	B	B	B
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育力が最大の課題である。 ・現状の学力、いじめ、貧困、DV等の課題から、課題の根源である家庭への支援を、最も力を入れて取り組まねばならない。 ④・弁当の日を全校で実施しているが、弁当の日の目的を理解しているのか疑問である。 						

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	総合評価 (A・B・C・D)	A	B	B	B	B	B	B
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ①・イベントや講演会等へ参加しないまたは参加できない保護者への対応に課題があり、積極的家庭支援のあり方、支援チームの役割の見直し及び「家庭地域教育部会」の取組の充実が望まれる。 						

具体的施策名	32. 地域の教育力の充実	主管課	学校教育課、地域力推進課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	Ⅲ	学校・家庭・地域の連携・協力体制づくり
					個別目標	1	地域・家庭の教育力の再生
					具体的施策	(3)	地域の教育力の充実

目的	青少年の健全育成体制の充実及び家庭教育の支援を図るため、学校・家庭・地域及び関係機関が連携して、地域全体で子どもを育てる体制を整えていきます。
----	---

主な取組	① 「子どもの家事業」の推進 取組の内容: 放課後の居場所に困っている子どもとその父母を支援するために、地域の公民館等を活用して子どもたちの居場所「子どもの家」を設置し、地域の方々に協力を得て地域の子どもの家を育てます。	平成27年度現状				現状をもたらした原因					
		放課後等の子どもたちの居場所づくりとして、名護子育て支援塾に事業委託し公民館等を活用し子どもの家を設置して放課後の子どもの居場所づくりを行っているが、新規で2カ所の子どもの家が開設したが、開設できなくなった子どもの家もある。				支援者の変更や会場の確保の問題により開設できなくなった。新規に開設した子ども家については、学校からの要望や地域の支援者の協力により開設することができた。					
		令和元年度	目標	地域の公民館等を活用し、放課後等における子ども達の安全・安心な環境を設け、地域の方々の参画を得ながら活動などの取り組む。	平成30年度	目標	地域の公民館等を活用し、放課後等における子ども達の安全・安心な環境を設け、地域の方々の参画を得ながら活動などの取り組む。	取組概要	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの家の会場となっている学校長、区長へ挨拶、協力依頼 総会、定例会(13回) 各子どもの家クリスマス会 さくら祭り特設子どもの家の実施 ※名護子育て支援塾に委託し事業を実施している。 	成果及び反省点	H30年度は、地域からの要望があり、支援者と学校関係者の協力により、休園している稲田幼稚園園舎を利用し稲田小子どもの家を開設することができた。地域の支援者(退職教員、民生員、SSW、婦人会OB、保護者等)の協力により継続して子どもの家が運営できており、地域の子どもの放課後の安心して過ごせる居場所となっています。地域の方々と協力していただきながら、支援塾の役員と連携し取り組んで行く。
			実施値	18カ所		実施値	20カ所				
		成果指標	子どもの家実施数	目標値	18カ所	目標値	20カ所	実施値	18カ所		
		平成27年度現状				現状をもたらした原因					
		コーディネーターを各学校への配置から社会教育課に配置し、定例会を実施することで互いの情報交換、研修会等の企画・実施についてコーディネーターの資質向上にもつながり、円滑に学校支援に取り組むことができ、地域コーディネーターの活動について適切に管理できるようになった。				学校によって地域コーディネーターに資料印刷や学校行事の準備などの雑務をさせることがあり、内容によってはコーディネーターへ謝金を支払えない部分もあったため。社会教育課に配置し、適切な管理することで情報共有が強化され、円滑に支援活動に取り組むことができる。					
		令和元年度	目標	教師・保護者・地域住民が相互に交流・連携することで、住民等の学習成果の活用機会の充実を図り、学校の教育活動の支援に取り組む。	平成30年度	目標	教師・保護者・地域住民が相互に交流・連携することで、住民等の学習成果の活用機会の充実を図り、学校の教育活動の支援に取り組む。	取組概要	<ul style="list-style-type: none"> 地域コーディネーターを配置(3人)※地域学校協働活動推進員に名称変更 「学校・家庭・地域連携事業」運営委員会の開催(3回) 地域コーディネーター情報交換会の開催(26回) 学校支援ボランティア 延べ人数:31,214人 活動数:8,632件 	成果及び反省点	▲地域学校協働活動推進員の人数が減少した。 ◎CSと連動した推進員の活動ができた。
			実施値	12人		実施値	12人				
		成果指標	地域コーディネーターの人数	目標値	40回	目標値	40回	実施値	26回		
	地域コーディネーター情報交換回数	目標値	32,000人	目標値	32,000人	実施値	31,214人				
	学校支援ボランティア延べ人数										
平成27年度現状				現状をもたらした原因							
取組の内容:											
令和元年度	目標		平成30年度	目標		取組概要		成果及び反省点			
	実施値			実施値							
成果指標			実施値								

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	B					
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	②・地域コーディネーターが3人では十分な活動は出来ず、条件を良くするなど、人数の確保が必要。 ・地域コーディネーターの資質の向上に期待する。多くの市民が興味関心を示し、支援する体制づくりが必要である。							

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	C					
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	①・子どもの家事業は今後も継続して行う必要がある。ただ、退職教員が中心に運営する等、継続して行える仕組みを早急に整備する必要がある。場所は公民館の利用や空き教室の利用も必要。 ②・地域コーディネーター(地域学校協働活動推進員)の人員確保の取り組みが必要である。 ・家庭地域連携事業(コーディネーター)の保護者への周知拡大及びCS校の拡大が望まれる。							

具体的施策名	33. 社会教育団体の活性化	主管課	地域力推進課、各支所	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	Ⅲ	学校・家庭・地域の連携・協力体制づくり
					個別目標	1	地域・家庭の教育力の再生
					具体的施策	(5)	社会教育団体の活性化

目的	青少年の健全育成体制の充実及び家庭教育の支援を図るため、学校・家庭・地域及び関係機関が連携して、地域全体で子どもを育む体制を整えていきます。
----	--

主な取組	① 各支所の社会教育主事による地域の社会教育団体等の支援・社会教育だより等の充実 取組の内容：地域の行事等に参画しながら、課題解決に向けた手立てを住民と一緒に考えて、社会教育団体支援を推進する。地域限定広報誌を活用し、情報を届けるだけでなく、広報誌を通じ住民同士が繋がり、地域が元気になるきっかけづくりになるよう情報発信する。	平成27年度現状		現状をもたらした原因			
		キッズダンスサークルの立ち上げや、地域行事のサポート、新規でスタートしたイベントの実行委員会の支援、各支所青少年育成協議会の事業のサポートや新規事業の企画・実施など、積極的に進めている。 地域限定広報誌については、屋部支所管内「虹」、屋我地支所管内「やがじ」、羽地支所管内「羽地」を発行している。社会教育だより「心」については、現在は発行していない。		社会教育主事が地域に出向き、地域を元気にする活動を地域々々との交流や毎月情報を届ける広報誌で奨励し区長等のやる気を引き出すなど、地域が主体的に取り組むよう取り組んだ。 社会教育だより「心」については、市民のひろばと同じ内容となっていることから、休止ということとなり、現在は発行していない。			
		令和元年度	平成30年度	別紙(次項)に掲載 ※評価は4支所の取組をまとめて評価。		成果及び反省点	
		目標	目標			取組概要	実施値
成果指標	広報誌の発行	目標値	毎月1回	目標値		実施値	
主な取組	② 「名護市青年ネットワーク連合会」「名護市婦人会」「名護市子ども会育成連絡協議会」等の活動の支援 取組の内容：社会教育団体の活動を支援するため、補助金の交付や指導者研修会を実施している。各団体とともに、時代に応じた組織の在り方や活動内容などについて考えとともに、団体指導者研修会等を実施し、活動の活性化を支援します。	平成27年度現状		現状をもたらした原因			
		名護市子ども会育成連絡協議会と連携し、各区の子ども会育成者を対象に指導者研修会を実施した。また、名護市青年ネットワーク連合会と名護市青年エイサー祭り実行委員会は、団体統合に向けて検討会議を行い、統合に向けて調整を行っている。		名護市子ども会育成連絡協議会は、加入子ども会の減少により各区子ども会育成者へのプログラムや情報の提供、連携した育成活動ができない状況だった。市子連・社会教育課で連携し育成者研修会を行い、育成者研修と子ども育成活動に取り組むため。名護市青年ネットワーク連合会と名護市青年エイサー祭り実行委員会は、同じ方々が団体役員を兼務していることから、団体間で協議し、平成30年度は名護市青年ネットワーク連合会に団体の統合を予定している。			
		令和元年度	平成30年度	別紙(次項)に掲載 ※評価は4支所の取組をまとめて評価。		成果及び反省点	
		目標	目標			取組概要	実施値
成果指標	社会教育団体指導者研修会の参加者数 名護市青年ネットワーク連合会団体数 名護市婦人会会員数 子ども会会員数	目標値	120人 12団体 300人 200人	目標値	120人 10団体 450人 280人	実施値	118人 10団体 259人 185人

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	総合評価 (A・B・C・D)	B	B					
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	①・社会指導主事が各支所に配置され、地域活動で成果がでていることは評価できるが、支所格差がある。 ・地域限定広報誌発刊の効果も評価できる。 ②社会教育関係団体の在り方について、早急に団体と情報交換をする必要がある。						

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成30年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	総合評価 (A・B・C・D)	B	C					
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	①・各支所での社会教育主事を中心とした取り組みは、地域の状況にあわせて丁寧な取り組みがなされている。 ②・地区活動の維持は難しい状況と思うが、各団体のあり方から考えていかないと進まない。どのような社会教育団体であれば持続的に活動していけるのかからの議論が必要。						

具体的施策名	(別紙)33. 社会教育団体の活性化	主管課	4支所	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針 個別目標 具体的施策	Ⅲ 1 (5)	学校・家庭・地域の連携・協力体制づくり 地域・家庭の教育力の再生 社会教育団体の活性化
--------	--------------------	-----	-----	----------------------	-----------------------	---------------	---

		令和元年度	平成30年度	令和元年度	平成30年度	令和元年度	平成30年度
羽地支所	成果指標	広報誌の発行	毎月1回	目標値	毎月1回	目標値	毎月1回
	実施値	講座4回 学校連携企画1回 広報誌毎月1回発行		目標値	毎月1回	目標値	毎月1回
久志支所	成果指標	広報誌の発行	毎月1回	目標値	毎月1回	目標値	毎月1回
	実施値	0回		目標値	毎月1回	目標値	毎月1回
屋部支所	成果指標	広報誌の発行	広報誌月1回	目標値	広報誌月1回 ブログ月2回 講座等2回	目標値	広報誌月1回 ブログ月2回 講座等2回
	実施値	広報誌月1回 ブログ月1~2 講座4回		目標値	広報誌月1回 ブログ月2回 講座等2回	目標値	広報誌月1回 ブログ月2回 講座等2回
屋我地支所	成果指標	広報誌の発行	毎月1回	目標値	毎月1回	目標値	毎月1回
	実施値	毎月1回		目標値	毎月1回	目標値	毎月1回